IMPERIAL GEOLOGICAL SURVEY
國立地質調查所
TOKYO

地下資源調查所
圖書
部
冊

地質調查所報告

（地質調查所沿革及事業）

第三號

資料室

地質調査所報告第三號

明治四十年十二月

目次

地質調査所沿革及事業　一頁

地質調査所沿革及事業

地質調査所沿革及事業

目次

沿革……一頁
庶務……二二頁
沿革……二二頁
職員……二三頁
經費……二八頁
收入……三四頁
萬國地質學會議幷ニ萬國博覽會……三五頁
地質係……三七頁
沿革……三七頁
目的……三九頁
事業……四〇頁

外業……四〇頁
內業……四二頁
功程……四二頁
前途ノ事業……五六頁
土性課……五七頁
沿革……五七頁
目的……五八頁
事業……五九頁
外業……五九頁
內業……六〇頁
功程……六〇頁
地形係……六四頁
沿革……六四頁
目的……六六頁

事業……六六頁
外業……六七頁
內業……六七頁
功程……七〇頁
前途ノ事業……七三頁
油田調查……七三頁
目的及事業……七三頁
前途ノ事業……七五頁
分析係……七五頁
沿革……七五頁
目的……七七頁
功程……七七頁
前途ノ事業……七八頁
文庫及陳列館……七八頁

出版物……八一頁
一、地圖……八一頁
一、地形圖……八三頁
二、地質圖……八九頁
三、土性圖……九六頁
二、文書……九八頁
一、說明書……九八頁
二、報文及要報……一〇〇頁
三、其他ノ文書……一一四頁
四、歐文文書……一一八頁

地質調査所沿革及事業

沿革

明治七年一月二十四日内務省ニ地理寮ヲ置キ更ニ地理寮ニ木石課ヲ置キ山林及土石ノ事ヲ掌ラシメ、白野夏雲、寶石及鑛物採集ノ任ニ當リ木石陳列所ノ一部ニ之ヲ陳列シタリ、同十年諸寮廢セラレ、地理寮ハ地理局、木石課ハ山林課ト改稱セラレタリ、此歳始メテ甲斐、伊豆ノ地質調査ニ從事セリ、當時東京大學御傭教師「エドムンド、ナウマン」地質調査ノ必要ヲ論シ地質調査所設立ニ關シ政府ニ建議スル所アリ、相前後シテ東京大學理學部助教和田維四郎、亦同趣旨ヲ以テ政府ニ建議シ且ツ時ノ地理局長櫻井勉ニ其趣旨ヲ敷衍セリ、明治十一年五月三日「ナウマン」和田兩氏ノ意見ニ基キ地理局ニ地質課ヲ置キ、山林課ニ屬セル土石ノ事務ヲ擧ケテ之ニ屬セシメタリ、只官有地内土石ノ賣與及借區許否等ノ事務ハ山林課ノ管理ニシテ地質課ハ其合議ニ與カルノミ、是ニ於テ

事務所幷ニ事業所ヲ赤坂區葵町三番地山林課木石陳列所ニ設ク、創立當時ノ課員ハ荒井郁之助、白野夏雲、高島德三、杉浦艮一、大島國橘ノ五氏ニシテ地理局長櫻井勉ノ下ニ荒井郁之助課長ヲ申付ラレタリ、同月十日地質課章程ヲ定メ、地質課ハ内國全土ノ地質ヲ調査スルヲ主務トス ト規定セリ、同月十三日和田維四郎、内務省御用掛ヲ命セラレ地質調査ニ關シ畫策スル所アリ

明治十二年六月二日品川彌二郎、地理局長ニ任セラレ、「ナウマン」、和田兩氏ノ建議採用セラレ、三十日和田維四郎、地質課長心得申付ラレ諸般ノ設備ニ着手シタリ、蓋シ兩氏ノ意見ハ地質調査ヲ豫察及詳査ノ二トシ、前者ニアリテハ縮尺四十萬分一、後者ニアリテハ二十萬分一ノ地質圖及其說明書ヲ、土性調査ニアリテハ縮尺十萬分一ノ土性圖及其說明書ヲ編成シ、十二ケ年ヲ期シテ此事業ヲ完成スルニアリ、七月「ナウマン」轉傭ノ儀ヲ東京大學ニ照會シ其承諾ヲ得タリ、九月庶務、會計、地質、土性、地形、分析ノ六係ヲ置ク、是ヨリ或ハ陸海軍省、工部省、開拓使等ニ照會シテ

地圖其地ノ參考材料ヲ謄寫シ、或ハ府縣廳ニ依賴シテ管內ノ地圖及地誌ニ關スル圖書、陶磁土、其他有用材料ヲ蒐集シ、或ハ本邦各國公使館ヲ通シテ世界各國ノ地質調査所ト其出版物ノ交換ヲ求メ、圖書ヲ購入シ、器具ヲ整理シ、材料ノ收集ニ勉ムルト共ニ外業ノ調査ニ從事シタリ

明治十三年一月十五日赤坂區葵町二番地ニ於ケル本課技術室及事務室成リ之ニ移轉ス、分析室ハ未タ落成セサルヲ以テ東京大學ノ一部ヲ借リ分析ニ從事セリ、七月分析室落成シ之ニ移轉ス、是ニ於テ列品室、製圖室、地質及土性調査室、分析室及事務室ノ全部落成シタリ、一月「ヲスカル、コルシエルト」ヲ東京大學ヨリ轉傭シ四ケ年ノ契約ニテ分析係長ヲ命セリ、三月五日地質測量ノ事務ヲ地理局ヨリ勸農局ニ引渡シ本課ハ勸農局ニ屬スルコト、ナレリ、二十二日和田維四郎地質課長心得ヲ申付ラレ、品川彌二郎局長タリ、曩日明治十二年七月「ナウマン」轉傭ノ議決スルヤ同氏ハ一年間歸國ノ旨ヲ申出テタルヲ以テ之ヲ許シ、歸國中農學者、地形學者、傭聘ノ事ヲ託セリ、此歲八月「ゲヲルグ、リブシエル」來着、土

性係長ヲ命シ土性ニ關スル事業ヲ監督セシメ、九月「ヲツト、シユツト」來着、地形係長ヲ命シ地形ニ關スル事業ヲ監督セシム、同月「ナウマン」亦歸朝ス、卽チ地質調査長トシテ全般ノ地質調査事業ヲ監督セシム、是ニ於テ傭外國人皆來着セルヲ以テ調査區域ヲ議定ス、卽チ第一區調査區域トシテ定メタルハ富士川、江戸川中間ノ地方ナリ、而シテ調査ニ先チ其産業ノ狀況ヲ知ランカ爲メ該府縣卽チ東京、神奈川、靜岡、山梨、長野、群馬、埼玉ニ第一、鑛類及石炭類、第二、寶石及有用石類、第三、鹽類及硫黃、第四、建築用石材、第五、裝飾及彫刻用石材、第六、道路用石材、第七、硯石及砥石、第八、陶器、玻璃、瓦、煉瓦製造土類、第九、鑛泉、第十、開墾スヘキ見込アル地方等、其物品ニハ産地、開業履歷、功用及産出高、其他參考ニ供スヘキ件、鑛泉ニハ地方、溫度、功用、開墾ニハ地方ノ字、幅員、高低、山谷、水利等、坑業人又ハ發見人或ハ主任ヲシテ詳記セシメ之ヲ回致センコトヲ照會シ、同月課長和田維四郎第一調査區域ヲ巡回シ各地ニ協議ヲ遂ケ、翌月ヨリ傭外國人主任トナリ第一區ニ出張シ係員ヲ指揮シテ調査ニ着手シタリ

明治十四年四月七日勸農局廢セラレ、同日農商務省設置セラレ同省内ニ農務局ヲ置キ、同省事務章程第三條ニ農務局ハ勸農、漁獵、開墾、地質調査、農學校、農業上ノ建造物、農業上ノ統計ニ關スル文書ノ採集及農業議會ニ關スル事務ヲ調理スト規定シ、地質課ハ同局ノ一課トナリ和田維四郎地質課長ヲ申付ラル、同月十八日地質調査所ト唱ヘラレ、各局ニ會議シテ地質調査ハ啻ニ農業上關係アルノミナラス工業、鑛山等ノ諸業ニ渉リ廣ク地下埋藏ノ天產物ヲ探リ、殖產ノ富源ヲ究ムルノ事業ナルコトヲ明カニセリ、二十日和田維四郎所長ヲ申付ラレ地質調査所ノ組織成レルモ未タ全ク農務局管理ノ下ニアリ、六月二十五日制定ノ各局處務規程ニハ農務局ニ地質課ヲ置キ、地質課ハ全國ノ地質ヲ調査シ、土性ヲ檢シ、地形ヲ測リ及分析等ノ事ヲ掌理スト規定シ地質調査所ノ名稱廢セラレタリ、此歲四月第一區調査區域略完結ニ近ツケルヲ以テ第一區ノ北東ニ第二區調査區域ヲ定メ、更ニ其南西ニ第三區調査區域ヲ定メ第一區ト同一ノ方法ヲ以テ調査ニ從事セリ、又豫察區域ヲ定メテ

第一、第二ト命名シ其調査ニ着手シタリ

明治十一年地質課設置後同十五年ニ至ル約四年間ハ準備ノ時代ナリ、創立後卽チ明治十一年度ニハ經費僅カニ三千五百九十一圓七十五錢、課員五六名ナリ、翌十二年度ハ經費四千八百三十二圓ニ增加セリ、十二年六月地質調査ノ議決スルヤ時ノ內務卿伊藤博文ヨリ同年七月以降十二年間、五萬八千圓ヲ以テ地質調査ニ從事スヘキヲ達セラル、爾後各般ノ設備ニ着手シ事業ノ進行ニ勉メタルモ適當ナル技術官ヲ得ルニ難ク、其明治十三年勸農局ニ移リシ際ノ如キ課員ハ課長ノ外、屬五名、御用掛六名、雇十二名ニ過キス、而シテ傭外國人皆來着シ調査ノ順序ヲ定メテ之ニ從事スルニ至リタルハ同年十一月ニシテ當初ノ約一年有半ハ豫定ノ事業ニ着手スルニ至ラスシテ止メリ、同十四年四月農商務省ニ入リシ際ニハ課員ハ課長ノ外、屬九名、御用掛十五名、雇二十名ニ增加セリ、抑本事業タル未タ經驗ナキ地質探檢ニ屬シ、調査ノ甚タ困難ナルト、適當ナル技術官ノ僅少ナルト及各般ノ準備ヲ要スルモノアルトハ

第一、第二ト命名シ其調査ニ着手シタリ

明治十一年地質課設置後同十五年ニ至ル約四年間ハ準備ノ時代ナリ、創立後卽チ明治十一年度ニハ經費僅カニ三千五百九十一圓七十五錢、課員五六名ナリ、翌十二年度ハ經費四千八百三十二圓ニ增加セリ、十二年六月地質調査ノ議決スルヤ時ノ內務卿伊藤博文ヨリ同年七月以降十二年間、五萬八千圓ヲ以テ地質調査ニ從事スヘキヲ達セラル、爾後各般ノ設備ニ着手シ事業ノ進行ニ勉メタルモ適當ナル技術官ヲ得ルニ難ク、其明治十三年勸農局ニ移リシ際ノ如キ課員ハ課長ノ外、屬五名、御用掛六名、雇十二名ニ過キス、而シテ傭外國人皆來着シ調査ノ順序ヲ定メテ之ニ從事スルニ至リタルハ同年十一月ニシテ當初ノ約一年有半ハ豫定ノ事業ニ着手スルニ至ラスシテ止メリ、同十四年四月農商務省ニ入リシ際ニハ課員ハ課長ノ外、屬九名、御用掛十五名、雇二十名ニ增加セリ、抑本事業タル未タ經驗ナキ地質探檢ニ屬シ、調査ノ甚タ困難ナルト、適當ナル技術官ノ僅少ナルト及各般ノ準備ヲ要スルモノアルトハ

事業ノ進捗ヲシテ意ノ如クナラシムルコト能ハス、而モ此期間ニ於テ尚ク數冊ノ報告書ヲ公ニスルヲ得タルハ非常ナル成功ト云フヘキモ、當初ノ十二年計畫ノ四分ノ一ハ遂ニ全ク豫定ノ事業ヲ進行スルヲ得ス經過スルニ至リタルハ實ニ已ムヲ得サルナリ

是ヨリ先明治五年ニ北海道開拓使ニハ「ベンジヤミン、スミス、ライマン」ヲ傭聘シ、「ヘンリ、スミス、モンロー」及山内徳三郎等十二名ヲ同氏ノ助手トナシ同道ニ於ケル炭田、其他ノ地質調査ニ從事セシメ其成績大ニ見ルヘキモノアリ、明治九年開拓使ノ廢セラルヽヤ同氏ハ十名ノ助手ト共ニ内務省ニ轉傭セラレテ勸業寮ニ入リ、同十年三月更ニ工部省ニ轉傭セラレ工作局ニ於テ本邦ノ油田幷ニ鑛山ノ地質調査及油田地ノ鑿井等ニ從事シ、同十三年ニ至リ該調査略完了セルヲ以テ之ヲ中止シタルハ本邦ニ於ケル此種事業ノ爲メ大ニ遺憾トスル所ナリ、其事業ノ成績ハ地質圖幷ニ文書ヲ以テ世ニ公ニセラレ、本邦ニ於ケル此種出版物ノ先驅ヲナシ事業經營上至大ノ參考資料タリシハ言フヲ須ヒサルナ

リ

明治十五年二月十三日地質課ヲ廢シテ地質調査所ヲ置ク、十四日權少書記官和田維四郎、地質調査所長仰付ラル、二十三日處務規定ヲ定メ地質、土性、分析、地形、庶務ノ五係ニ分チ地質調査所ノ組織完成シ事業モ茲ニ其面目ヲ改ムルニ至レリ、處務規定左ノ如シ

地質調査所ハ地下埋藏ノ天産物ヲ探リ殖産ノ富源ヲ究メ産業改進ノ方法ヲ考按シ其適用ヲ指示スル所ナリ其分掌ヲ定ムル左ノ如シ

地質係

地質ヲ調査シ地質圖ヲ調製シ鑛産物ノ所在多寡井ニ眞否ヲ査定ス

土質係

土壤鑛肥等ヲ調査シテ土性圖ヲ調製シ土質ト植物トノ反應關係ヲ精査ス

分析係

産業ノ材料ヲ試驗若クハ分析シテ改進ノ針路ヲ示シ又特ニ起業ノ方法ヲ按ス

地形係

形ヲ測量シ山川ノ位置高低ヲ實測シテ地形圖ヲ調製シ殖産材料ノ所在井ニ運搬ノ便否ヲ考察スルノ用ニ供ス

庶務係

明治十五年二月地質調査所創立當時ニハ所員ハ所長權少書記官一名、屬四名、御用掛二十二名、雇二十名、總計四十七名ニシテ俸給總額一ケ月僅カニ千三百三十六圓四十錢ナリ、傭外國人ハ明治十四年三月條約ニ違背セルヲ以テ「リブシエル」ヲ、同十五年一月「シユツト」ヲ都合上解傭シタルヲ以テ現員二名ナルモ、十一月「リブシエル」ノ後任ニ「フエスカ」來着即チ土性係長トナセリ、其俸給總額ハ一ケ月銀貨千百五十圓ナリトシ、一ケ年ノ總經費ハ五萬五千八百三十一圓ナリ

明治十六年三月事業ノ順序ヲ定メ、地質調査所ハ農工業勸奬ノ目的ヲ以テ全國ノ地質調査ヲ施行スル所トスト規定セリ、而シテ事業ノ進捗スルニ從ヒ當初ノ計畫タル十二年ニシテ九十九圖幅ノ地質調査ヲ結了スルコトハ到底實行スヘカラサルコトヲ確メタルト共ニ外國人ヲ要セサルモ本事業ヲ實施シ得ヘキヲ認メタレハ和田維四郎ニ之カ監督ヲナスヘキ內命ヲ下シ、同氏ハ地質調査事業調査ノ爲メ明治十七年

二月歐洲ニ差遣セラレタリ、同十八年六月「ナウマン」ノ任滿ツルヤ傭ヲ解キ、七月和田維四郎歸朝、全般ノ事業監督ノ衝ニ當レリ、同年一月事業進行上便宜ノ爲メ二週間一度會議ヲ開クヘキコトヲ達セラレ、該會議ニ於テ各技術官ハ擔任業務ノ概要ヲ報告シ將來ノ事業ヲ協議シ併セテ各其意見ヲ陳述スルコト、ナセリ

本所創立ヨリ明治十八年十二月地質局設立ニ至ルマテ約四年ノ間ハ「ナウマン」監督ノ時代ニシテ試驗ノ時代トモ稱スヘク、諸種ノ調査試驗ニ從事シ、農業、鑛山、工業ニ關スル調査ノ外、陶器ノ試驗ニ從事シ、鹽田ノ改良ニ資シ、耕地、未耕地ノ整理ヲ企畫シ、各種苗ノ改良及移殖ノ方法改良等ヲ試驗シ、其事業成績モ亦廣ク諸般ノ事項ニ渉リ恰モ農商務省ニ於ケル各種技術ノ叢淵ニシテ顧問府タルノ觀アリ、此期間ニハ非常ナル困難ヲ經テ漸ク地形圖、地質圖及土性圖ヲ完成印刷シタリ、隨テ豫定ノ事業ハ甚タ進行セサリシモ依テ以テ後來ノ方針ヲ定ムルヲ得タリ」

明治十八年十二月二十八日ノ改革ニ際シ地質調査所ヲ廢シ更ニ地質

局ヲ置キ、處務規程ニ地質局ハ全國地質及土性ノ調査、鑛床ノ驗定及工業ノ原料實驗ノ事ヲ掌ルトコロトシ、局長及次長ヲ置キ、廿九日和田維四郎局長心得、原田豐吉局次長心得ヲ命セラル、同十九年一月地質局ヲ地質、土性、分析、地形、庶務ノ五課ニ分チテ事務ヲ分掌セシム、是ヨリ先和田維四郎ノ歸朝スルヤ地質調査及鑛山事務擴張ノ議ニ關シ建白スル所アリ、蓋シ鑛山事務ハ工部省ノ管理ニ屬セシモ明治十八年同省ノ廢セラルヽヤ其事務ヲ擧ケテ農商務省ニ移シ官房ニ鑛山ノ一課ヲ置ケリ、後地質及鑛山ノ事務ヲ合シ鑛山局ノ下ニ一括スルノ議熟シ、只分析ノ事務ハ鑛山以外ニ關係スルトコロ大ナルヲ以テ之ヲ官房ニ屬セシメテ一課トナスコトニ決セリ、此議ハ曩ニ和田維四郎ノ建議ニ反スルヲ以テ同氏ハ主トシテ地質及鑛山事務合一ノ不可ヲ唱ヘ議遂ニ止ミタルモ分析ノ事務ハ官房ニ於テ處理スルコト、ナレリ、同年二月官制ニ於テ地質局ヲ地質、土性、地形ノ三課トナセリ、同年一月及二月ニ制定セラレタル分課規定左ノ如シ

地質課　（一月制定）

一、地質ノ關係、地層ノ構造、鑛床ノ驗定及工業上有用金石鑛類調查ノ事
一、地質圖及其說明書編纂ノ事

土性課

一、農業上ノ土性及農產上ノ物料調查ノ事
一、主產植物土性下ノ關係試驗ノ事
一、土性圖及其說明書編纂ノ事

分析課

一、工業上有用物料ノ分析及其適否實驗ノ事
一、分析試驗報文編纂ノ事

地形課

一、地形測量ノ事
一、實測地形圖編纂ノ事

庶務課

一、局中ノ公文往復、物品發着事務ノ事
一、局中ノ圖書、諸器械保管ノ事
一、列品場管理ノ事
一、所屬ノ建物取締ノ事

一、他課ノ主管ニ屬セサル事務ノ事

第三十條　地質課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル　（二月制定）

一、地質ノ關係、地層ノ構造、鑛床ノ驗定ニ關スル事項

二、有用金石鑛類調査ニ關スル事項

三、地質圖及其說明書編纂ノ事

第三十一條　土性課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、農業上ノ土性及農產上ノ物料調査ニ關スル事項

二、主產植物土性トノ關係試驗ニ關スル事項

三、土性圖及其說明書編纂ノ事

第三十二條　地形課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地形測量ノ事

二、實測地形圖編製ノ事

明治十九年三月六日和田維四郎地質局長ニ、原田豐吉地質局次長ニ任セラレ、和田局長全般ノ監督ニ、原田次長地質調査及地形測量、「フエスカ」土性調査事業監督ニ任シ、鋭意事業ノ整理ト改良トヲ計リ地質調査事業ノ基礎茲ニ確立シ、調査上ニ一面目ヲ改メ其進捗更ニ大ナルモノアリ、其當時ハ局長、次長ノ外、技師一名、屬五名、技手二十四名、傭外國人一名

ニシテ一年ノ經費ハ四萬二千二百三十五圓ナリトス、蓋シ分析課ノ總務局ニ移リシニヨリ經費ハ前年ニ比シテ減少シタリ、五月六日葵町ヨリ麹町區道三町ノ本省内ニ移轉ス

明治二十年九月九日地質局長和田維四郎農商務省參事官ニ任セラレ、同月十三日地質局長心得ヲ命セラレ、十二月二十日復ヒ地質局長ニ任セラレ、同二十二年九月十六日鑛山局長ニ兼任セラレタリ

明治二十三年六月二十日官制改革ニ際シ地質局ヲ廢シ地質調査所ヲ置キ、地質調査所官制ヲ定メ、分析事務ノ官房ニ屬スルノ不利ナルヲ以テ復ヒ本所ニ屬セシム、該官制ニヨレハ地質調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ、一、土性調査ニ關スル事項、二、主産植物及土性ノ關係試驗ニ關スル事項、三、地質ノ關係、地層ノ構造及鑛床ノ驗定ニ關スル事項、四、有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項、五、有用物料ノ分析試驗ニ關スル事項、六、地形測量ニ關スル事項、七、土性圖及其說明書編纂ニ關スル事項、八、地質圖及其說明書編纂ニ關スル事項、九、實測地形圖編纂ニ關スル事項ヲ掌ルト

コロトシ、地質、土性、分析及地形ノ四係ニ分チ定員ヲ所長一名、技師十八名、技師試補六名、技手二十五名、書記五名トシ外ニ傭外國人一名、顧問外國人一名アリ、同年度ノ經費ハ六萬四千四百九十一圓餘トス、二十一日鑛山局長和田維四郎所長ニ兼任セラル、七月分課規程ヲ定ム左ノ如シ

第一條　地質調査所ニ地質係、土性係、分析係及地形係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　地質係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地質ノ關係、地層ノ構造又鑛床ノ驗定ニ關スル事項

二、有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項

三、地質圖又其說明書編纂ニ關スル事項

第三條　土性係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、土性調査ニ關スル事項

二、主產植物及土性ノ關係試驗ニ關スル事項

三、土性圖及其說明書編纂ニ關スル事項

第四條　分析係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、有用物料ノ分析試驗ニ關スル事項

第五條　地形係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地形測量ニ關スル事項

二、實測地形圖編製ニ關スル事項

明治二十四年六月二十四日更ニ本省ノ官制ヲ定メ地質調査所ヲ農商務省ニ置キ所長ハ局長又ハ技師ヲ以テ之ヲ兼ネシムト規定シタリ、此際係ヲ改メテ課トナシ定員ヲ技師十三名、技師試補五名、技手二十名、書記四名トナシ經費ハ五萬一千九百六十四圓餘ニ削減セラレタリ、同二十五年六月料金ヲ徵シ官民ノ依賴ニ應シ分析試驗ヲ施行スルノ制ヲ定ム、當時制定セラレタル分課規定ハ更ニ前ト異ナルコトナシ

明治二十六年三月和田維四郎本官幷ニ兼官ヲ免セラル

明治十八年十二月地質局創立ヨリ二十五年度ニ終レル七年餘ノ間ハ和田維四郎監督ノ下ニ地質調査所ノ基礎確立シタル時ニシテ又事業ノ最モ進捗シタル期間タリ、殊ニ明治二十三年ノ如キ農商務本省ノ技師十七名ナルニ對シ本所ニハ十八名ノ技師アリ、以テ其當時ニ於テ如何ニ地質調査事業ノ重要視セラレタルカヲ察スルニ足ル

明治二十六年四月一日技師巨智部忠承地質調査所長ニ兼任セラル、同年十一月官制改革ニ際シ地質調査所ハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事項ヲ掌ルトコロトシ技師試補ヲ廢シ技師十三名、屬四名、技手十九名ヲ以テ定員トナシ經費モ亦四萬八千百四十三圓餘ニ減セリ、當時制定セラレタル分課規程ハ左ノ如シ

第三十六條　地質調査所ニ地質課、土性課、分析課及地形課ヲ置ク

第三十七條　地質課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地質ノ調査ニ關スル事項

二、地質ト土工ノ關係鑛床及有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項

三、地質圖及報告文編纂ニ關スル事項

第三十八條　土性課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、土性調査ニ關スル事項

二、土性ト主産植物ノ關係調査ニ關スル事項

三、土性圖及其說明書編纂ニ關スル事項

第三十九條　分析課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地質調査ニ必用ナル材料ノ分析試驗

二、工業及鑛業用材料ノ分析試驗

第四十條　地形課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地形測量ニ關スル事項

二、實測地形圖編製ニ關スル事項

明治三十年六月一日地質調査所ヲ廢シテ地質課ヲ置キ鑛山局ニ屬セシメ從來ノ課ヲ改メテ係トナセルモ分掌規程ハ前ト異ナルコトナシ、技師巨智部忠承鑛山局地質課長ヲ命セラル

明治三十一年十一月地質課ヲ廢シテ農商務省ニ地質調査所ヲ置キ係ヲ課ト改メタルモ分掌事項ニハ變化ナシ、同月技師巨智部忠承地質調査所長ヲ命セラレ、技師三名、屬二名、技手六名ヲ減シテ技師十名、屬二名、技手十三名ヲ以テ定員トナシ、經費ハ四萬貳千貳百四十九圓餘ニ削減セラル

明治三十三年四月燐礦調査ノ爲メ臨時費トシテ一萬六千四百八十三圓餘ノ支出アリシモ、翌年肥料礦物調査所設立セラレ該經費ハ擧ケテ該所ニ移レリ

明治三十三年七月油田調査ノ爲メ豫備金一萬四千九百二十八圓餘ヲ

支出シ油田調査ニ關スル臨時職員ヲ置キ之ヲ本所ニ屬シテ油田ノ調査ニ從事セシメ、定員ヲ技師二名、屬一名、技手九名トシ、同三十四年度ニハ臨時費二萬九千餘圓ヲ支出シ、技師二名、屬一名、技手五名ヲ增シテ油田ノ調査ニ從事セシム、同三十五年三月本所技手五名ヲ減シ八名ヲ以テ定員トナセリ

明治三十六年七月十餘年來官民漸ク其便益ヲ覺リ且ツ鑛工業ノ發達ニ資セル大ナリシ官民ノ依賴ニ應シテ分析試驗ヲ施行スルノ件ヲ工業試驗場ニ移サレタルハ本所ノ甚タ遺憾トスル所ナリ、同十二月油田職員廢セラレ油田調査ノ事業ヲ本所ニ移シ、本所處務規程ニ油田調査ノ項目ヲ加ヘ、定員ヲ技師十二名、屬二名、技手十七名ニ增加シタリ

明治三十八年三月本所創立以來事業ヲ共ニシ、且ツ其事業成績ノ見ルヘキモノアリタル土性課ノ事業ヲ擧ケテ之ヲ農事試驗場ニ移サレタルハ本所ノ特ニ遺憾トスル所ナリ、當時爲メニ技師三名、技手一名ヲ減セリ、同年七月十日巨智部忠承所長ヲ免セラレ、同日鈴木敏地質調査所

長ヲ命セラル、七月本所ヲ鑛山局ニ屬セシメ從來ノ課ヲ係ト改メタリ、同十七日鈴木敏鑛山局地質調査所長ヲ命セラル、同三十九年三月改定ノ分課規程左ノ如シ

第二十七條　鑛山局ニ鑛政課、鑛業課、庶務課及地質調査所ヲ置ク

第三十一條　地質調査所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、地質ノ調査ニ關スル事項

二、地質ト土工ノ關係幷ニ鑛産物及工業用材料ノ調査ニ關スル事項

三、地形測量ニ關スル事項

四、地質調査上必要ナル材料幷ニ鑛産物及工業用材料ノ分析試驗ニ關スル事項

五、地質圖及其說明書其他報告書類ノ編纂刊行ニ關スル事項

明治三十九年九月麹町區道三町ヨリ京橋區木挽町ニ移轉セリ、現時本所ヲ地質、分析及地形ノ三係ニ分チ、此外ニ庶務、文庫、陳列館ニ關スル事項アリ、係ニハ各係長ヲ置キ其他ニハ各主任ヲ置ク

明治二十六年四月以降ハ巨智部忠承、同三十八年七月以降ハ鈴木敏監督ノ時代ニシテ前年ヨリノ事業ヲ繼承シ所謂守成ノ時ナリ、而シテ數回經費節減ノ影響ヲ受ケ、經費ノ削減セラレタルト共ニ定員ヲ減少セ

ラレ、豫定事業ヲ進行スルコト能ハサリシハ深ク遺憾トスル所ナリ本所ノ事業ハ此ノ如クニシテ四期ニ區別スルヲ得、此四期ニ於テ甚タ困難ニシテ功果ヲ擧クルニ難キ探檢及概調査ノ時期ハ已ニ經過シ又ハ經過シ去ラントス、卽チ現ニ從事スル縮尺二十萬分一ニ對スル調査ハ數年ニシテ完了スヘシ、而シテ歐米ニ於ケル地質調査事業ヲ通覽スルニ本所ノ範ヲ取レル獨國ハ三十年前已ニ縮尺二十萬分一ニ對スル調査ヲ中止シ縮尺十萬分一ヲ以テ總圖ヲ刊行セリ、英國ノ地質總圖ハ四哩一吋卽チ縮尺約二十五萬分一、佛國、墺國、洪國ハ縮尺二十萬分一乃至三十萬分一トス、地質詳圖ハ佛國ハ縮尺四萬分一ノ原圖ニヨリ同八萬分一、英國ハ一哩六吋ノ原圖ニヨリ一哩一吋卽チ六萬三千三百六十分一、獨國ハ一萬分一ノ原圖ニヨリ二萬五千分一、墺國、洪國ハ二萬五千分一ニテ七萬五千分一、米國ハ六萬二千五百分一ノ地質圖ヲ刊行シ、地質構造ヲ明ニシ鑛產物ノ分布幷ニ應用上必要ナル事項ヲ示シ、以テ農、工、鑛業等ハ勿論衞生上又ハ人事上ニ至大ナル便益ヲ與ヘ尙ホ必要ニ

應シテ一層精密ナル調査ヲ施行ス、蓋シ歐米ノ強國ハ皆縮尺ノ大ナル地質圖ヲ刊行スルノ趨勢ナルモ其國情ト地質及鑛產物ノ如何ニヨリ地質圖ノ縮尺一定セス、現ニ本所ノ施行スル調査ニ在リテハ學術ヲ外ニスルモ地質調査ノ功果トシテ最モ必要ナル石炭、鐵其他有用鑛物賦存ノ區域、地下水ノ區域、鑛脈賦存ノ狀態、方向其他地方開發ニ必要ナル鑛產物等ヲ示ス能ハス、今ヤ本邦ニ於ケル地質調査事業ハ正ニ精調査及研究ノ域ニ進マントス、果シテ如何ナル程度ノ調査ヲ以テ最モ適當トナスヘキヤ未タ之ヲ斷言スルニ苦シムト雖モ歐米ニ比シテ地質ノ一層錯雜セル本邦ニ於テハ到底佛國ニ刊行スル八萬分一以下ノ縮尺ヲ以テシテハ地質構造ハ固ヨリ地質調査ノ功果ヲ明示スルコト能ハサルヲ斷言スルニ難カラサルナリ

庶務

沿革　庶務ニ於テハ庶務、會計ニ關スル事項ヲ掌リ、地質課創設ノ際ニハ庶務係、會計係ノ二係ニ分タレシモ明治十五年地質調査所創立ニ際

シ庶務係トナリ、同十八年二月庶務課トナリ、文書、調度、編輯、圖書、地質列品場ニ分チテ各主任ヲ置キ、同十九年一月ニ往復主任ト改メ、後又單ニ庶務ト稱シ、局長又ハ所長ノ專屬トナリ、屬二名乃至四名庶務、會計ニ從事ス、本所創立以來庶務、會計ニ從事セル職員左ノ如シ（拜命順）

屬　川崎弼　屬　齋藤隆　屬　橋爪源太郎
屬　伊庭顯藏　屬　福井常直（ママ）　御用掛　佐々木古信
屬　田村義寶　屬　渡邊中　屬　白野夏雲
屬　桃井義寬　御用掛　宮本重光　屬　武久資城
屬　川島榮三郎　屬　荒川澤之助　屬　吉町官輔
屬　蜂谷重三　屬　大熊敏次郎　屬　三宅機之
屬　蜂谷喜十郎　屬　鈴木精三　屬　肥塚吉之助
屬　上垣清　屬　須藤正治　屬　曦部恒助

職員　明治十一年地質課創立ノ際ニハ課員僅カニ五名ナリ、同十二年地質調査ノ議決スルヤ定員ヲ地質技術官十二名、土性、分析、地形測量、製圖技術官各六名及傭外國人四名トナセシモ當初ハ適當ナル技術官ヲ得ルニ難ク、且ツ經費節減ノ爲メ常ニ豫定人員ニ滿タス、而シテ明治十

九年以降ニ於テ本所定員ノ最モ多數ナリシハ同二十三年ノ所長一名、技師十八名、技師試補六名、技手二十五名トシ、同三十一年ノ改革後ニハ技師十名、技手十三名トナリ、同三十五年ニハ更ニ技手五名ヲ減セルモ同三十三年ヨリ同三十六年ニ亙リ臨時油田職員アリ、現時ハ技師九名、屬二名、技手十六名ノ定員ナリ、左ニ現在員及本所創立以來ヨリノ每年十二月ニ於ケル人員ヲ示セリ

現在所員（明治三十九年十二月調）

所長	技師	鈴木	敏
地質係、係長	技師	大塚	專一
	技師	伊木	常誠
	技手	遠藤	直吉
分析係、係長	技師	清水	省吾
	技手	金森	玄八
地形係、係長	技師	井上	禧之助
	技手	太田	健吉郎
	技手	間宮	義風
	技師	井上	禧之助
	技師	大築	洋之助
	技師	塚本	愚
	技手	吉岡	昇
	技手	若林	平三郎
	技手	堀内	米雄
	技手	飯塚	昇
	技師	小川	琢治
	技手	野田	勢次郎
	技手	内藤	道太郎
	技手	中村	熙靜
	技手	寺本	種義
	技手	牛澤	次郎

技手　山本龍太郎　技手　安室瀚

庶務係、主任屬　鈴木精三　屬　磯部恒助

文庫主任、技師　小川琢治　技手　遠藤直吉

職員表（毎年十二月調）

年別	技術官							庶務
十五年	地質御用掛	土性御用掛	地形測量御用掛	製圖御用掛	分析御用掛			屬御用掛
	權少書記官	九	五	五		六		三
十六年	一	八一	六	五		四一		一四
十七年	一	八一	六	五		四一		一五
十八年	一	八一	四一	四一	五	四		三三

年別	技術官							庶務
十九年	地質技手	技師	技師試補	土性技手	技師試補	地形測量技手	製圖技手	屬
	八一			五		五	六	四

備考

一、所長一名ハ本表人員外トス

一、技術官ノ欄ニアル御用掛及屬ハ當時技術ニ關スル業務ヲ掌レリ

年別	技術官								庶務
	地質技師	地質技師試補	土性技師	土性技師試補	地形測量技師	製圖技手	分析技師・技手試補	分析技師	屬・書記
二十年	八一		一		六一	四	七	五	
二十一年	二一		六		二三	四	七	五	
二十二年	一一		六		二三	四	七	五	
二十三年	一八		五四		四一	七	二六	四一	
二十四年	一六		五四		四一	九	六三	四一	
二十五年	一六		五四		三一	一〇	六一	四一	

備考

一、明治十八年十二月ヨリ明治二十三年六月マテハ地質局ト稱セラル、局長一名、局次長一名ハ本表人員外トス

一、明治十九年二月官制々定ニ依リ分析ニ關スル事務ハ總務局主管トナレルヲ以テ之ヲ省ク

備考

一、雜務ノモノハ本表ニ揭記セス

一、所長ハ鑛山局長之ヲ雜ネタルヲ以テ省ク

年別	技術官								庶務
	地質技師	地質技師試補	土性技師	土性技師試補	地形測量技師	製圖技手	分析技師・技手試補	分析技師	屬・書記
二十年	八一		一		六一	四	七	五	
二十一年	二一		六		二三	四	七	五	
二十二年	一一		六		二三	四	七	五	
二十三年	一八		五四		四一	七	二六	四一	
二十四年	一六		五四		四一	九	六三	四一	
二十五年	一六		五四		三一	一〇	六一	四一	

三十七年	三十六年	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年	三十一年	三十年	二十九年	二十八年	二十七年	二十六年
三七	三六	一五	二四	二四	二四	二四	二五	一五	二五	二五	一五
一三	一三	一三	一三	一五	一五	一五	一五	二五	二五	二五	一五
五一	五一	一一	一一	一一	二一	二一	三一	二一	二一	二一	三一
四丨	四丨	二丨	四丨	三丨	三丨	三丨	七丨	八丨	八丨	八丨	八丨
四一	四一	三一	五一	五一	四一	五一	五二	六二	六二	六二	六二
二	二	二	二	二	二	二	三	三	三	三	四
31	30	20	29	25	25	26	34	35	36	36	36

年別	技術官						庶務
	地質技手	地形測量技手	製圖技手	分析技手			屬
三十年	一七						二
三十九年	二六	一一	四一	五一	四一	三二	二
三十八年	一七	一一	四一	四一	二二		二
三十七年	一一	二一	三一	二一	一一		一
三十六年	一一	二一	二一	一一			一
三十五年	二二	七一	三一	二一			二
三十四年	一二	八一	三一	二一			二
三十三年	二一	四一	三一	一一			一

備考　一、所長ハ技師之ヲ兼ヌ

臨時油田ニ關スル職員

經費　明治十一年地質課ノ經費ハ三千餘圓、同十二年ハ四千餘圓ナリ、同年地質調査ノ爲メ一ケ年五萬八千圓ノ經費ヲ以テ事業ヲ進行スル

ノ計畫ヲ定メラレタルモ經費ハ常ニ一定セスシテ毎歲增減アリ、明治十五年本所創立以來同十八年度ニ至ル間ハ一ケ年ノ經費約五萬五六千圓ナリ、同十九年分析課ノ總務局ニ移サレタルヲ以テ經費ハ四萬二三千圓ニ減シ、同二十三年度ヨリ分析課ヲ併セテ地質調査所ノ設立セラルルヤ經費六萬四千餘圓ニ增加セリ、爾後經費節減ノ影響ヲ受ケテ漸次削減セラレ、特ニ明治二十六年及同三十一年ノ改革ニハ經費一萬餘圓ヲ削減セラレタリ、左ニ本所創立以來本所ニ配布セラレタル豫算額ヲ示サン

科目 / 年度	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度	十九年度
額	五五、七六一・〇〇〇圓	五五、七六一・〇〇〇圓	五五、六一・〇〇〇圓	四〇、六一九・〇〇〇圓	四二、八七五・〇〇〇圓

備考 一、十八年度ノ減額ハ分析課ノ分離セシカ爲ナリ、同年度ノ科目及金額ヲ擧クレハ俸給貳萬千九百五拾四圓、諸給參千八百九拾五圓、旅費五千七百六拾壹圓、廳費八千四百九圓、修繕費六百圓ナリ

科目＼年度	二十年度	二十一年度	二十二年度	二十三年度	二十四年度
俸給及諸給	二五、五〇〇・〇〇〇圓	二五、五六八・〇〇〇圓	二八、〇五〇・一〇〇圓	三五、〇五〇・〇〇〇圓	三一、六七一・〇〇〇圓
修繕費	二〇〇・〇〇〇	二〇〇・〇〇〇	二〇〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇
旅費	六、一四八・〇〇〇	五、九九七・四九〇	六、三二六・四七〇	六、四二六・四七〇	四、三一七・五二〇
雜給	—	—	—	四、〇二六・一〇〇	三、二六〇・一八〇
廳費	二、一四七・〇〇〇	九、四二一・五一〇	一二、四一〇・四三〇	一五、二三四・六二〇	二一、八三二・八二〇
計	四二、九九五・〇〇〇	四一、三七・〇〇〇	四五、九八七・〇〇〇	六一、〇七七・二〇〇	六一、四四二・五二〇
臨時營繕費	—	—	—	—	二、九二〇・〇〇〇
總計	四二、九九五・〇〇〇	四一、三七・〇〇〇	四五、九八七・〇〇〇	六一、〇七七・二〇〇	七四、三六二・五二〇

備考　一、二十三年度ノ增額ハ分析課併合ノ爲ナリ、同年度ヨリ雜給ノ目ヲ設ク

一、二十四年度ハ分析室燒失ニ依リ物品購入費トシテ廳費ニ八千餘圓ノ增額アリ、又分析室建築費トシテ營繕費ヲ配付セラレタリ

科目＼年度	二十五年度	二十六年度	二十七年度	二十八年度	二十九年度
俸給及諸給	二九、一七五・〇〇〇圓	二八、〇三〇・〇〇〇圓	二四、五三六・〇〇〇圓	二一、一三六・〇〇〇圓	二一、一三六・〇〇〇圓

修繕費	三五〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇
旅費	三、六六八・一五〇	四、五三一・一五〇	四、五三一・一五〇	四、五三一・一五〇	四、七三八・五八〇
雜給	三、二六〇・一八〇	二、四三四・六四〇	一、七一七・一〇五	一、七一七・一〇五	一、七一七・一〇五
廳費	一三、二三四・六一〇	一三、九一六・一一〇	一、二一〇六・三〇〇	一、二一〇六・三〇〇	一、四〇六・三〇〇
地質調査及製圖費	—	—	一、二一〇六・三〇〇	一、二一〇六・三〇〇	一、四〇六・三〇〇
總計	四九、六八七・九五〇	四九、二六一・九一〇	四三、七七六・六五五	四一、三五〇・一五五	四二、六五七・五八五

備考

一、二十七年度以降ハ廳費ノ內ヨリ事業費ヲ割キテ地質調査及製圖費ノ目ヲ設ケ、且ツ雜給ヲ雜給及雜費ト改ム

一、二十七八兩年度ニ俸給及諸給ノ減額セルハ兩年度ニ外國人各一名ヲ解傭セシ爲ナリ

一、二十九年度ヨリ俸給平均額ヲ定ム(技師俸給年額千圓、屬月額貳拾七圓、技手月額參拾圓)

科目 / 年度	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
俸給及諸給	一九、〇九四・〇三七圓	二〇、四八〇・〇〇〇圓	一七、一四〇・〇〇〇圓	一九、九四〇・〇〇〇圓	一九、九四〇・〇〇〇圓

修繕費	三五〇・〇〇〇	—	三五〇・〇〇〇	—	—	—	—	—	—	三五〇・〇〇〇
旅費	四、七三八・五八〇	五、二一二・四三〇	四、七三八・五八〇	五、二一二・四五〇	五、二一二・四五〇	四、七三八・五八〇	五、二一二・四三〇	五、二一二・四五〇	五、二一二・四五〇	六〇、六五八・六四二
雜給及雜費	一、七一七・一〇五	一、四二七・五〇〇	一、七一七・一〇五	一、四二七・五〇〇	一、四二七・五〇〇	一、七一七・一〇五	一、四二七・五〇〇	一、四二七・五〇〇	一、四二七・五〇〇	四五、五〇一・七八五
廳費	一、四〇六・三〇〇	—	一、二九三・五〇〇	—	—	一、二九三・五〇〇	—	—	—	四三、二四九・九三〇
地質調査及地質圖製費	一六、九二三・六〇〇	一八、四七〇・〇〇〇	一六、九二三・六〇〇	一九、九七〇・〇〇〇	一九、九七〇・〇〇〇	一六、九二三・六〇〇	一八、四七〇・〇〇〇	一九、九七〇・〇〇〇	一九、九七〇・〇〇〇	七七、九六二・〇三八
計	四二、四九〇・〇四二	四六、五四九・九五〇	四五、五〇一・七八五	四六、五四九・九五〇	四六、五四九・九五〇	四五、五〇一・七八五	四六、五四九・九五〇	四六、五四九・九五〇	四六、五四九・九五〇	二九、七四二・五〇〇
臨時費										
營繕費	—	—	—	—	—	—	—	—	三、〇〇〇・〇〇〇	七九、二九二・四五〇
燐礦調査費	—	—	—	—	—	—	—	一六、四八三・一〇〇	—	
油田調査費	—	—	—	—	—	—	—	一四、九二八・九八八	二九、七四二・五〇〇	
萬國地質學會議參列費	一八、一六八・六〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	
總計	六〇、六五八・六四二	四五、五〇一・七八五	四三、二四九・九三〇	七七、九六二・〇三八	七九、二九二・四五〇					

備考

一、三十二年度判任官俸給(屬、技手)平均額ヲ參拾參圓ニ改ム

一、三十二年度以降修繕費、廳費及俸給及諸給ノ內奏任俸給ハ配付セラレスト雖モ奏任俸給ハ定員ニ平均額ヲ乘シテ假リニ配布額ニ加フ

一、三十三年度ニハ所長巨智部忠承歐米各國燐礦取調ノ序ヲ以テ萬國地質學會議ニ參列ヲ命セラレ旅費貳百圓ヲ給セラル

一、三十三年度以降技師俸給平均額ヲ千四百圓ニ改ム

一、三十四年度ノ營繕費ハ油田調査室新築ノ爲ナリ

科目 ＼ 年度	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十八年度	三十九年度
俸給及諸給	一八、五六〇、〇〇〇圓	一八、五六〇、〇〇〇圓	一八、五六〇、〇〇〇圓	二〇、二六八、〇〇〇圓	二〇、二六八、〇〇〇圓
旅費	四、八二六、五二〇	四、八二六、五二〇	三、六二六、五二〇	四、六八〇、一九〇	四、六八〇、一九〇
雜給及雜費	一、六〇九、八〇〇	一、六〇九、八〇〇	一、五七四、八〇〇	一、二六八、二〇〇	一、二六八、二〇〇
地質調査及製圖費	二一、九一四、〇〇〇	二一、九一四、〇〇〇	二三、九一四、〇〇〇	一六、五〇八、〇〇〇	一六、五〇八、〇〇〇
計	四六、九一〇、三二〇	四六、九一〇、三三〇	三七、六七五、三二〇	四二、七二四、三九〇	四二、七二四、三九〇
臨時費 營繕費	—	一八、二七六、〇〇〇	—	—	一七、三五〇、〇〇〇
臨時費 油田調査費	二九、〇九三、五〇〇	二九、〇九三、五〇〇	一三、九二六、〇一〇	—	—
臨時費 萬國地質學會議參列費	—	三、三五二、八一〇	—	—	二、八〇四、八〇〇
總計	七六、〇〇三、八二〇	九七、六三二、六二〇	五一、六〇一、三四〇	四二、七二四、三九〇	六二、八七九、一九〇

備考　一、三十五年度以降判任官俸給平均額ヲ參拾八圓ニ改ム、但シ臨時職員ノ判任官俸給平均額ハ參拾參圓

一、三十六年度營繕費ハ事務室及有臭瓦斯室ノ改築ト分析室修繕ノ爲ナリ

一、三十八年度ハ土性課ノ分離ニ依ル減額ト油田調査費ヲ經常費ニ併合シタル增額ト差引五千餘圓ヲ增加シ地質調査及製圖費ノ目ヲ地質及油田調査費ト改ム

但シ油田調査職員判任官俸給平均額ハ從前ノ通參拾參圓

一、三十九年度營繕費ハ特許局ト廳舍交換ニ付分析室新築ト事務室修繕ノ爲ナリ

收入　明治二十五年七月本所ニ於テ手數料ヲ徵シ官民ノ依賴ニ應シテ分析試驗施行ノ業務ヲ開始セルニ當初ハ之カ利便ヲ知ルモノ少カリシモ箕年ナラスシテ官民大ニ其惠ヲ受ケ爲メニ鑛工業ノ發達ヲ促セルコト少ナカラス、而シテ收入モ直ニ千圓以上ニ達シ豫期以上ノ功果ヲ收メタリ、然ルニ十一年後ノ明治三十六年七月此事業ヲ擧ケテ工業試驗所ニ移サレタリ、左ニ本事業開始以來ノ料金ヲ示サン

明治廿五年（同年七月ヨリ）	三四五・〇〇〇圓	明治廿六年	九五五・六〇〇圓
同　廿七年	六一七・七〇〇	同　廿八年	一、〇六一・一〇〇
同　廿九年	一、二四二・二〇〇	同　三十年	一、六三二・六〇〇

同　卅一年　一、四六一・五〇〇　同　卅二年　二、三八七九〇〇
同　卅三年　二、二八六・五〇〇　同　卅四年　一、六九〇・六〇〇
同　卅五年　一、五六五・二〇〇　同　卅六年(同年六月マデ)　一、一一二・四〇〇

萬國地質學會議幷ニ萬國博覽會　萬國地質學會議ハ地質學ノ發達進歩ヲ助長シ、各國ニ於ケル地質、鑛產ノ現狀ヲ報告シ、其調查ニ關シ各取ルヘキ方針ヲモ議スルニアリテ每回各國ヨリ代表者ヲ派遣シ以テ其議ニ與ラシム、而シテ會議中ハ以上ノ外汎ク地質、鑛產ニ關スル各般ノ事項ヲ審議シ、實地巡驗ヲ施行シ、互ニ研鑽シ以テ地質調查事業ニ貢獻セントス、是ヲ以テ本所ハ明治十七年瑞西國主催ノ第三回萬國地質學會議ニ恰モ歐洲地質調查事業調查中ノ所長和田維四郎ヲ參列セシメ、明治二十一年獨逸主催ノ第四回萬國地質學會議ニハ本邦金屬ノ產出高、輸出高及輸入高ヲ一覽表トナシ陳列シ各國參列委員ノ稱讚ヲ得、同三十年露國主催ノ第七回萬國地質學會議ニハ特ニ所長巨智部忠承、技師恒藤規隆ヲ派遣シ、英文ニテ刊行セル地質調查所事業成績一覽幷ニ圖書、鑛物、岩石、化石、土壤等ノ標本及特ニ調製シタル縮尺百萬分一ノ大

日本帝國地質圖幷ニ大日本帝國土性圖ヲ出陳シ、大ニ會員ノ稱讃ヲ博シタルノミナラス本邦ニ於テ斯業ノ參考ニ供スヘキ資料交換ノ途ヲ開キ且ツ各國ニ本邦地質調査ノ事業ヲ紹介スルノ機運ヲ得タリ、同三十三年佛國主催ノ第八回萬國地質學會議ニハ所長巨智部忠承ヲ、同三十六年墺國主催ノ第九回會議ニハ技師井上禧之助ヲ、同三十九年墨國主催ノ第十回會議ニハ技師伊木常誠ヲ特派セリ

萬國博覽會ニハ明治十七年ニ墺國萬國博覽會ニ豫察地形圖ヲ出品シタルヲ初トス、該博覽會ハ之ニ對シ金牌ヲ贈與セリ、同三十三年佛國巴里ニ開催ノ巴里萬國博覽會ニハ佛文ニテ刊行セル地質調査所事業成績一覽幷ニ圖書、鑛物、岩石、化石、土壤等ノ標本ヲ出陳セリ、而シテ右出品物整理ノ爲メ技師小川琢治ヲ派遣セリ、之ニ對シ佛國政府ハ「クラン、プリー」(大牌)壹箇、幷ニ協贊者和田維四郎出陳ノ鑛物ニ對シ金牌一箇ヲ贈與シ、同三十七年米國聖路易萬國博覽會ニハ特ニ調製セル縮尺百萬分一大日本帝國油田總覽圖、縮尺二百五十萬分一大日本帝國高低及近海

深淺圖幷ニ縮尺五十萬分一ノ福島縣岩代國耶麻郡磐梯山破裂前後ノ模型及附圖、其他圖書、鑛物、岩石、化石、砥石、陶磁土、燐礦、石油、土壤等ノ標本ヲ出陳セリ、之ニ對シ聖路易萬國博覽會ヨリ「グランド、プライズ」(大賞)幷ニ金牌ヲ贈與セリ、又內國博覽會ニハ其都度參考品トシテ本所ノ刊行物及標本類ヲ出陳セリ

地質係

沿革　地質調査事業ハ創業以來「ナウマン」監督ノ任ニ當リ、明治十六年以降原田豐吉一部監督ノ衝ニ立チ、同十八年「ナウマン」解傭後ハ原田豐吉專ラ事業監督ニ任シ、同十九年及同二十三年ノ改革ニ際シ新ニ分掌事項幷ニ業務ヲ規定シ地質調査事業ノ基礎ヲ定メタリ、爾後沿革ノ章ニ於テ記載セルカ如ク規定ニ多少ノ變更アリタルモ業務ニ於テハ更ニ異ナルコトナシ、課長、係長及本所創立以來地質調査ニ從事セル技術官ハ左ノ如シ

自明治十八年十二月
至同二十三年六月　局次長　原田豐吉

自明治十九年三月至同二十年二月　課長　山下傳吉

自明治二十年二月至同七月　課長　山田皓

自明治二十一年十一月至同二十二年十一月　課長　中島謙造

自明治二十一年十一月至同二十三年七月　課長心得　巨智部忠承

自明治二十三年七月至同二十六年四月　課長　巨智部忠承

自明治二十六年四月至同三十一年二月　係長　中島謙造

自明治三十一年十一月至同三十五年十一月　課長　井上禧之助

自明治三十五年十一月至同三十八年七月　課長　鈴木敏

自明治三十八年七月至現今　係長　大塚專一

御用掛　小藤文次郎

屬　坂市太郎

技師　西山正吾

技手　原田鎭治

技師　奈佐忠行

技師試補　高島米八

技手　田村英太郎

技師　佐川榮次郎

技手　吉田弟彦

技手　大井上義近

屬　橋爪源太郎

御用掛　濱口隆輔

御用掛　富士谷孝雄

技手　加藤敬介

技手　白野已巳郎

技手　西山惣吉

技師　小川琢治

技手　遠藤直吉

技師　伊木常誠

技師　野田勢次郎

（拜命順）

御用掛　佐々木古信

屬　白野夏雲

御用掛　横山又次郎

技手　柳澤甚五郎

技師　三浦宗次郎

技手　山上萬次郎

技師　石原初太郎

技師　金原信泰

技師　大槻洋之助

目的　本係ノ目的ハ廣ク全國ノ地質ヲ精査シ、併セテ之ニ賦存スル有用物料ノ種類、性質、配布ノ狀態、原料ノ多寡等ヲ探究シテ以テ殖産ノ資料タル鑛業ノ利源ヲ明ニシ、工業ノ原料ヲ詳ニシ、地體ノ組織ヲ示シテ以テ土木事業ノ方針ヲ確定スルノ參考ニ具ヘ、及土性調査事業ノ基礎ヲ造ルニアリ、本係ノ分擔事務ヲ左ノ四項ニ大別ス

一、地質ノ調査
一、鑛床ノ驗定
一、有用金石土石類ノ調査
一、地質圖同說明書及報文類ノ刊行

普通地質ノ調査ハ規定ノ方法ニ從ヒ全國ノ地質調査ヲ大成センコトヲ期シ、鑛床驗定、各般ノ有用鑛物、建築、裝飾、彫刻等ニ供用スル石材、水脈、道路、建築、築港工事等ニ關スル事項、其他天災、地變及經國上ノ要地ニ就キテ殊ニ細密ノ調査ヲ實施ス、是等實地調査卽チ外業ノ結果ハ內業ニ依リテ逐一研究ヲ施シ之ヲ圖書ニ編製ス

事業　本係ノ事業ハ豫察調査、圖幅調査及特別調査ノ三種ニ區別セリ、豫察調査ハ本土、四國、九州ヲ五區域ニ區分ス、一區分ハ經度三度、緯度四度ヲ以テ限リ、圖幅調査ハ九十九圖幅ニ區分シ經度一度、緯度半度、卽チ約三百乃至三百四十二方里ノ面積トシ豫察調査ニ比シ精密ナルモノナリ、前者ハ縮尺四十萬分一ヲ以テ、後者ハ縮尺二十萬分一ヲ以テ地質圖ヲ刊行ス、特別調査ハ特別ノ區域、特ニ鑛產地ニ就キ精密ニ調査スルモノニシテ地質圖ノ縮尺一定セス、說明書又ハ報文ヲ出版シ地質圖ト共ニ世ニ公ニス

外業　外業ニ於テハ地體ノ構造、地層ノ排列ヲ攻究シ、鑛床ト地質トノ關係、石材其他ノ有用鑛物ノ調査、土木、建築事業ト地質トノ關係、鑛泉、溫泉、用水脈等ノ調査ヲ施行シ、岩石、化石、鑛物幷ニ鑛石及有用鑛物ノ標本ヲ採集ス、卽チ普通ノ圖幅調査ニアリテハ地形係ニ於テ實測ノ縮尺五萬分一ノ地圖ヲ用キ或ハ自ラ縮尺五萬分一ノ野稿圖ヲ調製シテ岩石ノ配置、層向、傾斜、其他ノ事項ヲ記入シ、鑛床ノ配置、有用物料ノ產地等苟

モ總テ調査ニ關スル一般ノ觀察ヲ記載シ、又ハ天然或ハ人工ノ地層斷面ニ臨ムトキハ之ヲ摹取シ、特ニ鑛床及有用材料ニ關シテ綿密ノ注意ヲ加ヘ必要ニ應シテ特別調査ヲ施行ス、特別調査ハ鑛床ノ驗定、水脈ノ調査、道路、築港、建築工事、有用土石類產出地ニ關スル調査、天災地及經國上ノ要地ニ就キ臨時適應ナル研究方法ヲ用キ施行スルモノニシテ圖幅調査ニ比シ甚タ細密ナリ

外業期間ハ明治十一年地質課創立ノ際ニハ春秋三ケ月ト定メタリ、「ナウマン」監督ノ際ニハ殆ント一定スル所ナシ、明治十九年一月從來ノ經驗ニ基キ技術官ノ業務ヲ規定セリ、卽チ一年ノ內四ケ月ヲ以テ外業ノ期間トナシ、此期間ニ技術官ハ各自地質圖一圖幅ノ調査ヲ完了シ、豫察調査ニ於テハ每年其區域ヲ指定シ略其三倍ノ面積ノ調査ヲ完了スルコトニ定メタリ、明治三十年十月旅費規程ノ改正ト、經費ノ減少トニヨリ外業期間四ケ月ヲ短縮シテ三ケ月トナシ、爲メニ調査進行上ニ遲滯ヲ來セルハ實ニ已ムヲ得サルナリ

内業　明治十九年以後ハ内業期間ヲ八ケ月、同三十年以降ハ九ケ月ト改定シタルモ臨時特別調査ニ従事シ又ハ官民ノ依頼ニ應シテ出張調査ニ従事スルコト多ク、實際内業ニ従事スル期間ハ六ケ月乃至八ケ月ナルヘシ、而シテ内業期間ニ従事スル主要ナル事項ハ

一、岩石及化石ハ地體ヲ構造スル原料及新古ヲ證左スル標準ナレハ其驗定ヲ詳明ニシ、岩石ノ如キハ顯微鏡及理化學鑑別法ニ因テ其種類及性質ヲ研究ス

二、地質構造ヲ明カニシ、鑛床賦存ノ狀態ヲ明ニスル爲メ斷面圖ヲ調製シ、地質圖幅說明書ヲ編纂シ、特種ノ調査ニ關シテハ特別報文ヲ編纂シ地質要報又ハ報文ニ揭載ス

功程　本所事業ノ四期ニ分タルヽカ如ク本係ノ功程モ亦之ヲ四期ニ區別スルヲ得ヘシ、地質課創立ヨリ地質調査所創立ニ至ルノ間ハ全ク調査ノ準備及探檢ノ時期ニ屬シ、技術官亦僅少ニシテ伊豆、甲斐及加賀手取川ノ地質概報ヲ出版シタルニ止マレリ、第二期ハ本所創立ヨリ地

質局創立ニ至ル時期ニシテ事業稍緒ニ就キ、技術官稍整備セリト雖モ準備ヲ要シ試驗ヲ要スルコト多ク事業ハ尚未タ探檢ニ屬シ遲々トシテ進捗セス、僅カニ東北部豫察地質圖ヲ印刷ニ付シ、伊豆圖幅地質圖ヲ印刷シタルニ止マルモ、爾後ノ事業ノ進捗ハ第二期ノ經驗ニ待ツモノ多ク本所事業發達ノ端緒ヲ開ケリ、第三期ハ同十九年以後卽チ和田局長、原田局次長監督ノ時代ニシテ同廿五年度ニ終レリ、此期間ハ技術官整頓シ事業ノ基礎確立シ、明治十九年、同二十年、同二十三年ニ豫察東北部、東部、中部地質圖ヲ刊行シ、年々四圖幅乃至六圖幅ヲ刊行セリ、第四期ハ明治二十六年度以降ニシテ數次技術官ノ減少セルニ關セス年々地質圖幅三幅以上ヲ刊行スルヲ得タルハ事業方針ノ確立シタルニ加ヘテ技術官ノ業務ニ熟練セルト、概察ノ漸次結了セルト及業務ノ整理セル結果ニ外ナラス、若シ夫レ技術官ノ減少ナカリセハ已ニ圖幅調査ヲ完了シタルヤ疑ヲ容レス

地質圖ヲ始メテ刊行シタルハ伊豆圖幅ニシテ明治十八年ニアリ、之ニ

次テ翌年豫察東北部地質圖ヲ出版セリ、蓋シ本邦ニ於テ此種ノ地圖ヲ刊行シタルハ之ヲ以テ嚆矢トス、同二十七年豫察地質圖完成シ、同三十一年ニハ縮尺百萬分一大日本帝國地質圖ヲ刊行シ帝國ノ地質及鑛産ヲ總覽シ易カラシメタリ、同三十四年東北部豫察地質圖ヲ增補刊行セリ、地質圖幅ハ明治十八年刷行ノ伊豆圖幅ヲ第一トシ、爾後今日ニ至ルマテ七十一圖幅ヲ刊行シ六圖幅ノ調査ヲ結了シ、餘ストコロ二十二圖幅ナリトス

特別調査ハ地質調査ノ功益ノ世ニ認メラルヽニ至リ年ト共ニ增加シ官民ノ依囑漸ク頻繁トナリ、現時ハ人員ノ寡少ナル爲メ多ク之ニ應スル能ハサルヲ遺憾トス、而シテ其調査ノ成果ハ報文ニ綴リテ或ハ之ヲ依賴ノ官廳又ハ出願人ニ交付シ、或ハ本所ノ出版物、地學雜誌、地質學雜誌等ニ登載シタリ、蓋シ彼ノ製鋼事業ニ關スル材源ノ調査ノ如キ、石炭、石油調査ノ如キ、石材調査ノ如キ皆本係ニ於テ施行セルモノナリ、左ニ特別調査ニ從事セル地方幷ニ技術官ヲ示サン

特別調査

地質調査	事由	調査者	年度
羽後國尾太鑛山		ナウマン	十四年度
四國吉野川砂金地		同	十六年度
上野國中小坂鑛山		坂市太郎	同
備中國吉岡鑛山		同	同
備前國佐野鑛山		同	同
堺水脈調査		ナウマン	同
熊本水脈調査		同	同
羽後國阿仁鑛山		中島謙造	十七年度
遠州地方石油產地		同	十八年度
越後國草倉鑛山		坂市太郎	同
下野國足尾鑛山		原田鎭治 奈佐忠行	同
萬古陶磁器原料調査		山下傳吉	十九年度

地質調査	事由	調査者	年度
信樂陶磁器原料調査		山下傳吉	十九年度
東京地質調査		鈴木敏	同
越後地方石油產地		中島謙造	二十一年度
御料局佐渡鑛山		同	同
御料局生野鑛山		巨智部忠家	同
常陸國多賀鑛山		巨智部忠承 大塚專一	同
長門國藏目喜鑛山		巨智部忠承	同
瀨戶陶磁器原料調査		三浦宗次郎	同
會津陶磁器原料調査		奈佐忠行	同
東京灣地質調査		鈴木敏	二十二年度
大和國十津川崩壞地原因調査		巨智部忠承	同
美作國國分寺鑛山		同	二十三年度
御料局生野鑛山探鑛地	御料局依囑	同	同
豐筑煤田石炭原料調査		鈴木敏	同

東京灣水底地質調查	市區改正委員會依賴	三浦宗次郎	二十三年度	
陸中國釜石礦山鑛床		大塚專一	二十四年度	
愛知、岐阜縣震災地		巨智部忠承	同	
神奈川縣函根御料地	御料局依囑	鈴木敏	同	
兵庫、德島、山口、大分、岐阜、福井、長野、宮城、岩手、秋田縣下鑛物、岩石、化石標品採集	閣龍世界博覽會出品用		二十五年度	
陸中國仙人鐵山鑛床	製綱事業調查會依囑	大塚專一	同	
越後國赤谷鐵山鑛床	同	同	同	
肥前國西彼杵多良村四近鐵鑛床	同	同	同	
伊豫國銅山	同	中島謙造	同	
中國產鐵地	同	大塚專一	同	
羽前國森鑛山鑛床	東京地方裁判所請求	中島謙造	同	
石見國大森銀山鑛床	出願	巨智部忠承	同	
美作國油木村四近石油產地	同	中島謙造	同	
德島縣水害地		山下傳吉	同	
奈良、和歌山二縣及四國含銅硫化鐵鑛床		中島謙造	同	
靜岡縣天龍川筋硫化鐵鑛床		同	二十六年度	

地質調査	事由	調査者	年度
福島縣吾妻山爆裂		鈴木敏 三浦宗次郎	二十六年度
岡山縣和氣村鐵鑛床		巨智部忠家	同
大和國生駒山四近建築石材產地	出願	大塚專一	同
越後國津川近傍鐵鑛床	臨時製鐵事業調查委員會依賴	同	同
越後國石油產地		中島謙造	二十七年度
京都市四近地質調查	第四回內國勸業博覽會出品地質圖調製用	鈴木敏	同
京都、大阪、滋賀、兵庫縣鑛物、岩石、化石標品採集	第四回內國勸業博覽會出品用		同
日向國飫肥四近燐酸石灰產地		大塚專一	同
豐前國小倉近傍鐵鑛床	臨時製鐵調查會依囑	同	同
長門國吉部村鐵鑛床	同	同	二十七年度
遠江國相良地方石油地		中島謙造	同
千葉、神奈川縣地裂線	震災豫防調查會依託	大塚專一	同
支那金州半島	大本營所命	巨智部忠承 鈴木敏	二十八年度
鹿兒島縣川邊、大島、馭謨郡諸島嶼		山上萬次郎	同

鹿兒島縣霧島山爆裂		同	同	同	同
廣島、島根、山口、福岡縣岩鐵產地	製鐵事業調查會依囑	大塚專一	同	同	同
青森縣斗南半島運河豫定地	縣廳依囑	鈴木敏	同	同	同
青森縣東津輕郡船渠地	同	同	同	同	同
青森縣鐵鑛產地	臨時製鐵調查會依囑	大塚專一	同	同	同
北海道渡島國鐵鑛產地	同	同	同	同	同
宮城縣藏王山破裂		巨智部忠承	同	二十九年度	同
神奈川、栃木、千葉三縣下水脈		同	同	同	同
赤間關市水源地	赤間關市水道事務所依囑	同	同	同	同
神戸市水源地	神戸市水道事務所依囑	同	同	同	同
香川縣下水脈	縣廳依囑	同	同	同	同
秋田縣震災地	同	同	同	同	同
青森縣大港附近地質	海軍省依囑	鈴木敏	同	同	同
山梨縣河口、西兩湖疏水地地質構造	縣廳依囑	同	同	同	同
島根縣大森鑛山鑛床	出願	同	同	同	同
山口縣美禰、豐浦兩郡無煙炭產地	同	同	同	同	同

地質調査	事由	調査者	年度
福岡縣三池炭山	同	鈴木敏	二十九年度
長崎縣平戸煤田		同	同
北海道夕張空知兩砂金地	出願	大塚專一	同
宮城縣鳥谷澤硫黃山	同	同	同
鹿兒島縣枕崎金山鑛床	同	同	同
山口縣玖珂、吉敷兩郡鐵鑛產地	製鐵所依囑	巨智部忠承	同
埼玉縣入間郡內山崩レ地方	縣廳依囑	鈴木敏	同
群馬縣下石油產地		中島謙造	同
東京府下鐵鑛產地		同	同
佐賀縣下有田泉山ノ陶石地	縣廳依囑	鈴木敏	同
秋田縣北秋田郡無煙炭	出願	巨智部忠承 大塚專一	二十九年度 三十年度
秋田縣熊澤硫黃山	同	大塚專一	三十年度
北海道十勝國ニ於ケル殖民地用原野ノ地質	同	山下傳吉	同
福岡縣下遠賀、鞍手、嘉穗三郡炭田ノ鑛量	九州鐵道會社依囑	鈴木敏	三十年度

栃木縣下足尾銅山	出願	同	同	
茨城縣下那珂郡ノ石油脈	同	大塚專一	同	
靜岡縣下伊豆國田方郡伊東村內地盤陷落	縣廳依囑	中島謙造	同	
露國主催萬國地質學會ニ出陳ノ鑛物、岩石、化石標本採集			同	
新潟縣下石油產地		中島謙造	三十年度	
宮崎縣下燐礦產地		佐川榮次郎	三十一年度	
小佛、笹子兩隧道ノ地質		小川琢治	同	
長野、福島、栃木、山梨四縣下ノ鹽泉	鹽業調查會依囑	巨智部忠承	同	
舞鶴軍港地質	海軍省依囑	同	同	
福井縣下石油產地	出願	大塚專一	同	
長崎市水道水源地	縣廳依囑	巨智部忠承	同	
神奈川縣下浦賀船渠ノ地質	出願	井上禧之助	同	
長崎、佐賀、靜岡、岐阜燐礦產地		巨智部忠承 井上禧之助 佐川榮次郎	三十二年度	
神戸市水道ノ地質	縣廳依囑	巨智部忠承	同	
橫濱稅關附近海底地質	大藏省囑託	井上禧之助	同	
宮崎縣下石炭產地	製鐵所囑託	巨智部忠承 佐川榮次郎	同	

地質調査	事由	調査者	年度
佛國巴里萬國博覽會ニ出陳スヘキ鑛石標本ノ採集			三十二年度
福島縣下沼尻火山破裂原因		井上禧之助	三十三年度
半田山地裂ノ原因		同	同
朝鮮國巨濟島		佐川榮次郎	同
門司水源地	門司市長依囑	巨智部忠承	同
橫濱稅關附近海底地質	大藏省囑託	井上禧之助	同
山梨縣北都留郡鐵鑛	出願	佐川榮次郎	同
長崎縣西彼杵郡長與村鑛山	同	巨智部忠承	同
石川縣丸尾鑛山	同	井上禧之助	同
福島縣下會津郡東山地方		金原信泰	三十四年度
秋田縣下金鑛產地	出願	小川琢治	同
鳥取縣下鑛產地	同	伊木常誠	同
東京市深川區諸町十三番地內水脈	同	小川琢治	同
秋田縣及北海道油田地概查		井上禧之助	同

鳥取、山口、茨城、栃木、宮城五縣下ノ石材調査		巨智部忠承 鈴木敏	三十五年度	
伊豆國大島岩石標本採集			同	
東京築港豫定區域海底地質	東京市長囑託	井上禧之助	自三十三年度至三十五年度	
山梨縣甲府停車場附近水理調査	遞信大臣依囑	同	三十五年度	
赤間關市貯水地	縣廳依囑	巨智部忠承	三十四年度三十五年度	
佐賀縣武雄町溫泉脈異動調査	同	同	三十五年度	
東京府下鳥島地質		金原信泰	同	
栃木縣芳賀郡物部村三谷地內金鑛產地	出願	井上禧之助	同	
神奈川縣大山金山	同	同	同	
因幡國岩美郡蒲生村寶得鑛山	同	伊木常誠	同	
北清地方鑛產地	外務省囑託	小川琢治 金原信泰	同	
神奈川縣下鎌倉町長谷稻瀨川邸宅地ノ水脈	出願	伊木常誠	三十六年度	
北海道十勝國產金地	同	大塚專一	同	
廣島縣芦品郡中國鑛山	同	小川琢治	同	
奈良縣吉野郡洞川鐵鑛產地	同	井上禧之助	三十五年度三十六年度	
山梨縣乙女坂附近重石產地	同	小川琢治	三十六年度	

地質調査	事由	調査者	年度
長崎縣西彼杵郡金鑛產地	同	小川琢治	三十六年度
石川縣江沼郡山中溫泉脈	同	同	同
米國聖路易萬國博覽會ニ出陳スヘキ岩石、化石、陶磁土等ノ標本採集		同	同
日高國沙流產油地概査		大塚專一	同
靜岡縣磐田郡佐久間村銅山ノ鑛床		巨智部忠承	同
山口縣下ノ關水道貯水地	山口縣知事申請	同	同
東京府井ノ頭水道貯水地	東京市長囑託	鈴木敏	三十六年度 三十七年度
山形縣赤湯溫泉々源地	山形縣知事申請	金原信泰	三十七年度
福島縣下無煙炭山	出願	小川琢治	同
新潟縣西頸城郡橋立上路金山鑛床	同	金原信泰	同
宮城縣桃生郡雄勝濱石材產地調査	同	小川琢治	同
山形縣西村山郡五百川村赤山銀鉛山	同	同	同
兵庫縣及京都府鑛山鑛床	同	巨智部忠承	同
青森、秋田、岡山三縣下產油地		同	同

新潟縣油田區域視察		鈴木敏	鈴木敏	同
宮城、岩手、長野、福島、群馬、栃木、靜岡七縣下金產地		巨智部忠承 小川琢治	同	同
茨城縣花崗石材地		鈴木敏	同	同
滿洲地質及鑛產調查	大本營囑託	金原信泰 小川琢治 大築洋之助 大井上義近	同	同
韓國地質及鑛產調查		井上禧之助 金原信泰 伊木常誠	三十七年度 三十八年度	同
長崎縣下金鑛調查		鈴木敏	三十八年度	同
宮城、岩手二縣下金鑛調查		鈴木敏 小川琢治	同	同
茨城、福島二縣下煤田調查		鈴木敏	三十七年度 三十八年度	同
滿洲地質及鑛產調查	關東民政署囑託	小川琢治 大井上義近 大築洋之助	三十八年度	同
山形縣下東村山郡大寺村附近ノ地動區域地質調查	山形縣知事申請	大塚專一	三十九年度	同
北海道美唄、奈井江煤田調查	出願	鈴木敏 大築洋之助	同	同
埼玉縣比企郡中山村外四ヶ村灌田用地水地質調查	埼玉縣知事請願	野田勢次郎	同	同
佐賀縣下嬉野溫泉地質調查		井上禧之助	同	同
石川外三縣下燐礦調查		小川琢治 本塚愿	三十八年度 三十九年度	同

ニ從事シ又共進會ニモ本所技師ノ審査ニ從事シタルコトアリ

明治二十七八年日清戰役ニ際シテハ技師巨智部忠承、鈴木敏、大本營ノ囑託ニヨリ滿洲ニ出張シ地質及鑛產物ノ調査ニ從事シ、同三十四年ニハ技師小川琢治、金原信泰、北清ニ出張シテ鑛產物ノ調査ニ從事シ、同三十七八年戰役ニ際シ技師小川琢治、金原信泰、大築洋之助、技手大井上義近ハ滿洲ニ、技師井上禧之助、伊木常誠、金原信泰ハ韓國ニ出張シ地質及鑛產物ノ調査ニ從事シ、其報告ハ實業家ノ參照トナリ事業經營上ニ至大ノ便益ヲ與ヘタリ

前途ノ事業　現時從事セル圖幅ノ調査ハ餘ス所二十二幅ニシテ現技術官ヲ以テスレハ正ニ五年ニシテ完了スヘキ豫定ナリ、而シテ樺太、北海道、沖繩、臺灣等ハ調査未濟ノ地ニシテ之カ調査ヲ施行セサルヘカラサルト共ニ特別調査ヲ施行スヘキ區域ハ今後一層增加スヘキヤ明カナリ、蓋シ地質調査事業創立ニ際シ圖幅ノ縮尺ヲ二十萬分一ニ規定シタルハ專ラ調査竣功ノ速成ヲ期シタル結果ニ外ナラス、故ニ沿革ノ末

節ニ於テ記述セルカ如ク早晩更ニ縮尺ノ大ナル地形圖ニヨリ周密ナル調査ヲ施行セサルヘカラス、又土性調査事業ハ農事試驗場ニ移サレタリ、而シテ英國ニハ「ドリフト」調査、獨國ニハ平地調査、洪國ニハ土性地質調査アリテ地質調査所ノ一課ヲナセリ、該調査ハ獨リ土性ノ調査ニ止マラスシテ地盤ノ強弱、噴水井ノ區域、粘土、砂礫層ノ分布等ヲモ調査シ、上水、下水、衞生等ノ關係ヲモ知ルヲ得ルモノナリ、隨テ本邦ノ如キ近年事業勃興ニ伴ヒ早晩大都會及其附近ノ平地ニハ土性ノ外、精密ナル平地ノ地質調査ヲ施行セサルヘカラス、隨テ本係ノ事業ハ前途益多事ニシテ現今ノ技術官ヲ以テ能ク以上ノ事業ヲ遂行シ得ルヤ特ニ官民ノ熟考ヲ望ムコト切ナリ

土性係

沿革　土性調査事業ハ當初一年半ノ間ハ「リブシエル」監督ノ任ニ當レリ、本所創立後ノ明治十五年十一月ヨリ同廿七年十一月ニ至ル前後十三年ノ間「フエスカ」監督ノ位置ニ居リ、恒藤規隆ハ明治二十二年ヨリ同

三十六年ニ至ル間課長又ハ係長トナリ、本係ノ事業ハ蓋シ兩氏ノ力ニ待ツモノ多シ、課長、係長及本所創立以來土性調査ニ從事セル技術官ハ左ノ如シ

自明治十五年十一月　至明治十八年十二月　係長　「フエスカ」
自明治二十二年一月　至同二十三年六月　課長心得　恒藤規隆
自明治三十六年十二月　至同三十八年三月　課長　鴨下松次郎
自明治二十一年十二月　至同二十二年一月　課長心得　渡邊朔
自明治二十三年七月　至明治三十六年十二月　係長　恒藤隆規

屬　大內健
技師　青山元
技手　今井秀之助
技師　松岡操
技手　平田孝次郎
技師　小林房次郎
技師　早川元次郎
技師　東條平二郎
技手　安田彦
技手　鈴木重助
技手　菱川松治
技手　谷口貫道

（拜命順）
御用掛　高橋昌
技手　三成文一郎
技師試補　山中壽彌
技手　新莊三郎
技手　平島正五郎

目的　本係ノ目的ハ全國ノ土性ヲ調査シ、其農業上ノ適用及改良ノ方法等ヲ審案シ以テ農產ノ增殖ヲ企圖スルニアリ、其分擔業務ハ左ノ如シ

一　土性ノ調査

一　土性植物ノ關係試驗

一　礦肥ノ調査

一　土性圖同說明書及報文類ノ刊行

事業　本係ニ於テハ土性圖ヲ調製シ其說明書及報文ヲ刊行シテ本係ノ事業ヲ明ニス、土性圖ハ縮尺ヲ十萬分一ニ取リ府縣別ヲ以テ區域ヲ畫定セリ、蓋シ其縮尺小ニシテ土性ヲ詳細ニ明示スルニ難シト雖モ全國土性ノ大要ヲ辨知シ農藝上ノ利用ヲ指示スルヲ急務トシ速成ヲ期シタルヲ以テ此縮尺ヲ用ヒタルナリ、而シテ其效果漸ク世ニ認識セラレ府縣ヨリ之カ施行ノ速カナランコトヲ促スモノ多ク地方稅ヲ以テ調査ヲ施行シタルモノ少シトセス、而シテ該事業未タ完成スルニ至ラスシテ之ヲ農事試驗場ニ移サレタリ

外業　ハ地質調査ニ基キ土性ヲ區分シ、其廣袤ヲ測定シ、土層ノ構造ヲ調査シ、地表ヨリ三米以內ノ土中斷面ノ土質ヲ檢シテ斷面稿圖ヲ調製

シ、土壤ト母岩トノ關係ヲ査察シ、礦物肥料ヲ調査シ、其他土性、農業ニ關スル諸統計ヲ蒐集シ、母岩及土壤標本ヲ採集ス、特別ノ地方、例令ハ重要植物産地ノ如キ或ハ礦物肥料ノ如キ特ニ細密ナル調査ヲ施行シ經濟上適否ノ攻索ニ力メ、土性植物トノ關係ヲ明ニシ、原野、未耕地四近ノ農事ニハ精細ナル統計ヲ需ム

内業　ハ外業ノ際採集シタル標本材料ヲ試驗シ土性圖ヲ調製シ及報文ヲ編纂スルニアリ、卽チ土壤及礦物肥料ハ理化學實驗ニヨリ精密ニ之ヲ檢定ス、而シテ原野、林地及荒蕪地ニ在リテハ土性ヲ明ニシテ以テ開發ニ適スルヤ否ヤヲ査定ス、土層ノ構造ヲ示スニハ斷面圖ヲ以テス

功程　本係ノ功程モ亦地質係ト同シク四期ニ分ツヲ得ヘク、外業期間モ亦地質係ニ於ケルト異ナルコトナシ、只土性調査ハ府縣別ヲ以テ區域トナセルヲ以テ技術官一年ノ功程ヲ示スニ難シト雖モ平均一府縣ノ調査ハ一技術官二ケ年ヲ以テ完了スルノ豫定ナリ

土性圖ハ明治十八年出版ノ甲斐國土性圖ヲ始メトシ、年々平均二府縣

乃至四府縣ノ土性圖ヲ出版シ、明治三十八年本係ノ農事試驗場ニ移サルヽマテ土性圖ヲ刊行セル地方ハ二府三十四縣、調査結了ノ地方一府四縣ニシテ調査未濟ノ地方五縣トス

特別調査ハ創業以來常ニ意ヲ用ヒ、藍、烟草、麻、綿等ニ適スル土性ヲ調査シテ其培養法ニ改良ヲ加ヘ、石灰肥料濫用ノ弊ヲ攻究シ、礦物肥料ハ特ニ之ヲ調査シ、福島縣北會津郡ニハ同郡ノ依囑ニ應シ特ニ縮尺一萬分一ニヨリ精密ナル土性調査ヲ施行セリ、特別調査ノ主要ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

特別調査

土性調査事由	調査者	年度
北海道、東山道、東海道、山陽道及四國九州重要植物產地土性視察	フエスカ 渡部朔	二十一年度
北陸及中山道重要植物產地土性視察	フエスカ 東條平二郎	二十二年度
二府八縣（日本中部）土壤標本採集	内國勸業博覽會出品用 青山元	二十二年度
京都、大阪、鳥取、島根、山口、二府三縣下視察	重要植物產地取調 フエスカ 東條平二郎	二十三年度

土性調査	事由	調査者	年度
福島縣下吾妻山	爆裂ニ付被害地取調	フエスカ 鴨下松次郎	二十六年度
大阪府、靜岡縣土壤採集	土性植物試驗用	松岡操	同
宮城、岩手二縣土壤採集	同	三成文一郎	同
福井、石川二縣土壤採集	同	早川元次郎	同
長野、山梨、靜岡三縣土壤採集	同	松岡操 安田彦	二十七年度
京都府下土壤採集	土性植物試驗用	三成文一郎 安田彦	二十八年度
支那金州半島	大本營囑託	鴨下松次郎 小林房次郎	同
鹿兒島縣霧島山	噴灰調查	早川元次郎	同
北海道殖民地	現拓地及將來拓殖ニ充ツヘキ原野地土性視察	恒藤規隆	同
宮崎縣下礦肥產地	礦肥ノ調查探究	恒藤規隆 大塚專一	二十八年度 二十九年度
愛知、靜岡、群馬、栃木四縣下土壤採集	土性ト植物ノ關係試驗用	三成文一郎 松岡操	二十九年度
宮崎縣下土壤採集	同	恒藤規隆	同
山形縣下土性	縣廳依囑	鴨下松次郎	三十年度
山形、秋田、新潟三縣下ニ跨ル礦肥ノ調查		鴨下松次郎	三十年度

千葉、茨城ノ二縣下ニ於テ礦肥ノ産否如何ニ就キ探檢		安田彦	同	
京都府下土性概査	府廳依囑	恒藤規隆	三十一年度	
和歌山縣下土性概査	同	松岡操	同	
山形、秋田二縣下燐礦産地		鴨下松次郎	同	
宮崎、鹿兒島、熊本三縣下礦肥産否探檢		恒藤規隆	同	
和歌山、岐阜、靜岡、愛知四縣下土壤採集	土性植物ノ關係試驗用	三成文一郎 松岡操	同	
青森、新潟、三重、愛媛、高知五縣下ノ礦肥概査		松岡操 鴨下松次郎 恒藤規隆	三十二年度	
岐阜、新潟、茨城、靜岡四縣下ニ於ケル礦肥ノ産否ニ就キ探檢		鴨下松次郎 恒藤規隆	同	
神奈川、兵庫、德島、愛媛、長崎ノ五縣下ニ於テ土壤標本採集	地力試驗用	松岡操 小林房治郎 鴨下松次郎	同	
佛國巴里博覽會ニ出陳スヘキ土壤採集		鴨下松次郎 松岡操 三成文一郎 小林房次郎	同	
岐阜縣下土性概査	縣廳依囑	松岡操	三十三年度	
岩手、靜岡、鳥取、島根、長崎各縣下ニ於ケル地力試驗ニ關スル土壤採集	土性植物ノ關係試驗用	松岡操 三成文一郎	同	
神奈川縣農事試驗場ノ土性	縣廳依囑	松岡操	同	
福島縣北會津郡土性	同	恒藤規隆 平島正五郎 松岡操 小林房次郎 菱川松治	自三十二年度至三十四年度	
北海道及福岡、愛媛二縣下土性概査		小林房次郎 鴨下松次郎	三十三年度 三十四年度	
長野、兵庫、大分三縣下土壤採集	土性ト植物ノ關係試驗用	松岡操 小林房次郎	三十四年度	

土性調査	事由	調査者	年度
群馬、埼玉、栃木、茨城四縣下ニ渉ル鑛毒被害地ノ視察	臨時鑛毒調査會依囑	鴨下松次郎 恒藤規隆	三十五年度
長崎、熊本、秋田、和歌山四縣下土壤採集	同	鴨下松次郎 岡松操	三十五年度 三十七年度
韓國土性調査		鴨下松次郎 小林房次郎 三成文一郎	三十七年度

明治二十七八年日清戰役ニ際シ技師鴨下松次郎、小林房次郎ハ土性調査ノ爲メ滿洲ニ出張シ、同三十七八年日露戰役ニ際シ技師鴨下松次郎、三成文一郎、小林房次郎韓國ニ出張セリ

地形係

沿革　本係ノ事業ハ當初約一年半ノ間ハ「シユツト」監督ノ任ニ當レリ、本所創立ヨリ明治十九年ニ至ルマテハ關野修藏本係ノ首席ニアリテ「ナウマン」又ハ原田豐吉指揮ノ下ニ、爾後課長、或ハ係長トシテ明治三十八年六月ニ至ルマテ本係ノ監理ニ任シ功績甚タ大ナルモノアリ、課長、係長及本所創立以來本係ノ事業ニ從事セル技術官ヲ擧クレハ左ノ如シ

自明治十九年三月
至同　三十八年六月　課長　關野修藏

自明治三十九年四月
至現今　係長　井上禧之助

地形測量

技手　大川通久
御用掛　倉田吉嗣
技手　中村熙靜
技手　田村英太郎
技手　伊藤雪太郎
技手　清水仙八
技手　笠岡太郎

地形製圖

技手　寺本種義
技手　菅沼盈之
技手　市原正秀
技手　鈴木精忠
技手　高橋瀧太郎
技手　安室嵩

自明治三十八年六月
至同　三十九年四月　課長　金原信泰

（拜命順）

屬　岩間正備
技手　神足勝記
技手　堀内米雄
技手　須田讓作
技手　柳田伊之助
技手　飯塚昇

技師　阿曾沼次郎
御用掛　白石直治
技手　鈴木民作
技手　乙部直衛
技手　川非甲吉
技手　田村與吉
技手　山木龍太郎

（拜命順）

技手　戸川爲繼
技手　太田健吉郎
技手　吉田晉
技手　藤城重義
技手　青木雄太
技手　牛澤次郎

技手　柳澤甚五郎
技手　若林平三郎
技手　高麗虎
技手　佐々木信堅
技手　中川辨吉
技手　間宮義風

目的　本係ノ目的ハ地質及土性調査ニ必要ナル地形圖ヲ調製スルニアリ、其業務ヲ地形測量、實測地形圖編成及地形圖刊行ノ三ニ分テリ、蓋シ本邦ニハ未タ全國ヲ通シテ地形實測圖ナク隨テ地質調査ニ先テ地形測量ニ從事セサルヘカラス、創業ノ當初ハ三角測量、鑑力觀測ヲモ施行シ本邦ニ於テ嘗テ見サル正確ナル地形圖編纂ノ基礎ヲナセリ

事業　ハ地質係及土性係ニ要スル各種地圖ヲ編成シ又特別區域ノ測量及製圖ニ從事ス、地形圖ハ豫察地形圖及圖幅地形圖ヲ主ナルモノトス、經緯線ハ英國綠威ヨリ東經百三十六度ヲ中央子午線トナシ、北緯三十六度ヲ中央緯度線ト定メ「ボンネー」卽チ「フラムスチード」投影圖法ニ由リ之ヲ畫ス、圖幅ハ全國ヲ九十九幅ニ區分シ圖中ニ含ム有名ノ山川市街等ノ名ヲ圖題トナス、其縮尺ハ二十萬分一ニシテ高距四十米毎ニ一曲線ヲ描キ陸地ノ高低ヲ示セリ、各幅ノ大ハ經線一度、緯線半度（縦九寸餘横一尺五寸餘）ヲ以テ限レリ、豫察圖ハ全國ヲ五圖幅ニ區分シ、東北部、東部、中部、西部、西南部ト題セリ、其縮尺ハ四十萬分一ニシテ高距百米毎ニ一曲線

ヲ描キ高低ヲ示セリ、毎圖幅ノ大サハ經線三度、緯線四度（縦三尺七寸、横二尺五寸）ヲ限レリ、土性圖ハ縮尺十萬分一ニシテ暈繝ヲ以テ高低ヲ示セリ、特別圖ハ縮尺一定セス

外業　地形測量ハ實地ニ就キテ地形ヲ測量シ五萬分一ノ縮尺ヲ以テ野稿圖ヲ作ルニアリ、其實測ノ方法ハ

(一)量程車ヲ以テ測線ノ距離ヲ量リ

(二)平面卓ノ圖紙上ニ於テ山川、湖海、道路、市邑等現地ノ勢狀ヲ記載シ

(三)携帶經緯儀或ハ測向羅盤ヲ以テ路傍諸山ノ高度及方位ヲ測リ

(四)各要地ニ於テ晴雨計、寒暖計ヲ觀測シ海面上ノ高距ヲ算出シ

(五)主要ナル山川起伏ノ勢狀ノ見取圖ヲ畫キ、經緯儀或ハ測向羅盤ヲ以テ測リ得タル諸山ノ高度及方位等ヲ記載ス

内業　ハ外業ノ際ニ成リシ野稿圖ヲ縮小シ之ヲ源委トシ、外業中觀測セル晴雨計、寒暖計ノ觀測ヲ測候所ノ觀測ト比準シ以テ各地海面上ノ高低ヲ算出シ、并ニ經緯度其他ヲ以テ測定セシ高度ノ數ニ由リ諸山頂

高度ヲ算出シ、山系、水脈、道路等ヲ圖載シテ地形圖ヲ製スルニアリ、而シテ圖幅編輯ハ主ニ參謀本部陸地測量部測定ノ三角點、海軍水路部ノ經緯度測點ヲ用ヒ、本係員ノ實測圖ヲ以テ右ノ各點ニ接續セシメ、道路、山川等ヲ縮載シテ縮尺十萬分一ノ地形圖ヲ編成シ、山川見取圖ヲ以テ平面圖ニ改製シ且地質、土性兩係員ノ野稿圖ニ據リ細部ヲ補塡シ、或ハ陸海軍及鐵道局又ハ各府縣廳ノ實測圖類ヲ參錯シテ縮尺二十萬分一地形圖ヲ完成ス、豫察圖ノ編製モ略前法ニ同シト雖モ素ヨリ豫察ナルヲ以テ其要スル所ハ唯大綱ヲ示スニ在レハ前者ノ如ク細密ナラス、特別地形測量ニ於テハ以上測量ノ外、基線測量、三角測量ヲ施行スルコトアリ、其縮尺一定セス、而シテ各縮尺ニ準シテ精粗ノ差アリ、又調査ノ目的ニヨリ稍測量ノ方法ヲ異ニスルコトアリ、要スルニ特別地形測量ハ精細ノ測量ヲ要スル時施行スルモノトス、其主要ナル特別地形測量區域ハ左ノ如シ

特別調査

地形測量事由	測量者	年度
日本全國鐳力觀測	關野修藏 神足勝記	自十六年度 至十八年度
雁坂嶺通リ高低及廣袤測量	武藏ヨリ甲斐ニ至ル 河曾沼次郎 中村淵靜	十四年度
御料局生野鑛山測量	神足勝記 中村淵靜	二十二年度
御料局生野鑛山探鑛地	同	二十三年度
豐筑煤田	中村淵靜	同
秋田圖幅鑛山所在地	柳田伊之助	同
釜石鑛山近傍磁力觀測	關野修藏	二十四年度
宮崎縣下燐酸石灰產地	堀內米雄	二十八年度
鹿兒島縣川邊大島馭謨郡諸島嶼	同	同
長崎縣平戶煤田地方	關野修藏	二十九年度
北海道殖民地原野	中村淵靜	同
福岡縣下遠賀鞍手嘉穗三郡煤田地方	同	三十年度
北海道十勝國原野	堀內米雄	同
北海道殖民地原野	乙部直衛	三十一年度

地形測量事由	測量者	年度
宮崎縣下燐礦產地	堀内米雄	自二十九年度至三十一年度
新潟縣下石油產地	柳田伊之助	三十一年度
福島縣下北會津郡	中村濵靜 堀内米雄	三十二年度
福島、新潟二縣下鐵山	中村濵靜	同
羽後國由利郡地方	田村英太郎 中村濵靜	三十三年度
因幡國岩美郡蒲生村寶得鑛山	出願	
	中村濵靜 飯塚昇	三十四年度
肥後國天草郡煤田地方	田村英太郎 中村濵靜	三十五年度
奈良縣洞川鐵鑛產地	出願	
	田村英太郎	同
廣島縣芦品郡服部村中國鑛山	同	
	中村濵靜	三十六年度
茨城、福島二縣下炭田	中村濵靜 飯塚昇	三十七年度 三十八年度

功程　本係ノ功程モ亦地質係ト同シク四期ニ分ツヲ得ヘシ、明治十九年以前ニ於テ刊行セルモノハ豫察東北部地形圖及伊豆、横濱、上總ノ三圖幅ニ止マレトモ鑛力觀測、經緯度測量、三角測量等後來測量及製圖ノ

基礎トナルヘキ測量ヲナセリ、後年陸地測量部ノ事業進渉シ此等測量ヲナスノ要ナキニ至レリ

地形圖ハ明治十七年刊行ノ伊豆圖幅ヲ初メトシ、同年横濱、上總二圖幅亦出版セラレタリ、爾後年々平均三四圖幅刊行セラレ、現ニ圖幅總數九十九幅ノ內已ニ七十四圖幅ヲ完成印行セリ、豫察圖ハ明治二十七年已ニ完成シ東北部ノ增補訂正ハ同三十二年ニ出版セリ、蓋シ地質及土性調查ノ成績ヲシテ一目瞭然タラシムルハ精確ナル實測地圖ニ據ラサル可カラス、然ルニ本邦古來未タ此ノ如キ地圖ナク、或ハ二三ノモノアルモ地表ノ高低、水脈ノ細大等總テ地貌ノ實勢ヲ明示セルモノナシ、而シテ本所事業着手ノ當時ノ如キ本邦人ハ地質圖、土性圖ハ固ヨリ地形圖ノ如何ナルモノナルヤヲ識レルモノ稀レナリシモ今日能ク地形、地質、土性圖ノ必用缺クヘカラサルヲ曉ラシムルニ至リシハ此地圖ノ刊行ニ基クモノニシテ該地圖ハ實ニ本邦ニ於ケル陸地實測圖ノ嚆矢ナリトス、爾來刊行シ來レル地形圖幅及豫察圖ノ如キハ其縮尺ノ小ナル

ニモ拘ラス官民一般ニ之ヲ利用シ、鐵道線路、新道開鑿及疏水、運河、水力電氣、其他ノ工事ニ際シ此圖ニ由リ計畫立按セルコトハ其例ニ乏カラス、又常ニ旅行者ニ便ナルコトハ敢テ喋々ヲ要セサルナリ

明治二十一年縮尺百六十萬分一ノ地形圖ヲ刊行セリ、經緯度線ハ多圓錐投影法ニヨリ之ヲ畫シ、水路局測定ノ經緯度及參謀本部陸地測量部測量ノ三角測點ヲ基礎トシ海港、山位等ヲ置キ、本所ノ地形圖、其他ノ地圖ヲ參照シテ地形ヲ補塡シタルモノニシテ本圖ハ實ニ本邦ニ於ケル實測日本全圖ノ嚆矢トスヘシ、明治二十七八年戰役後、臺灣新ニ我領土ニ入リ、更ニ多數ノ新材料ヲ以テ明治三十年縮尺百萬分一ノ日本全圖ヲ刊行セリ、其編成ハ前者ト異ナルナキモ更ニ一層ノ精ヲ加ヘ前者ノ山嶽ヲ示スニ暈繝ヲ以テセルニ反シ本圖ハ高距二百米毎ニ一曲線ヲ描キ、著名ノ鑛山、有用材料ノ產地、噴火山、溫泉等ヲ記入シ、翌三十一年更ニ歐文ヲ以テ刊行シ、實ニ本邦ニ於ケル唯一ノ地形總圖タリ、此外縮尺ノ異レル地形圖アリ

前途ノ事業　地形圖幅總數九十九幅ノ內、既刊行ノモノ七十四圖幅、製圖完結セルモノ三圖幅ヲ除キ殘餘ノ二十二圖幅ハ現技術官之ヲ擔當スレハ約五年ニシテ完了スヘシ、而シテ本係ノ事業ハ地質調査事業ニ供フモノニシテ地質調査ノ精細ナルニ至レハ測量及製圖ノ事業モ亦精密ナルヲ要スルハ論ヲ待タサルナリ、參謀本部陸地測量部編成ノ縮尺二萬分一及五萬分一地形圖ハ其編成ノ趣旨本所ト異ナルアリテ本所ニ於テ直チニ之ヲ使用スルコト能ハサルモノアリ、隨テ本所ノ目的ニ適應スル程度ニ之ヲ改訂セサルヘカラス、且ツ陸地測量部ニ於ケル地形實測ハ未タ全國ニ亘リ其半ヲモ結了セサレハ本係ノ業務ハ今後益繁多ヲ告クルニ至ルヘシ

油田調査

目的及事業　本邦油田ノ地質ヲ精査シ含油層ノ頒布及石油胚胎ノ狀態ヲ覈カニシテ油田ノ開發及起業ノ方針ヲ示シ石油鑛業ヲシテ隆興ノ域ニ達セシメントスルノ目的ヲ以テ明治三十三年八月ヨリ特ニ地

質調査事業ノ一タル油田調査事業ヲ開始シ、其地形ニ關スル事項ハ地形係長、地質ニ關スル事項ハ地質係長ノ監督ノ下ニ地質調査、地形測量ニ從事セリ、其業務ハ油田ノ地形測量、地質調査幷ニ油田ノ地形及地質圖及其說明書ヲ刊行スルニアリ

地形及地質圖ハ縮尺二萬分一乃至四萬分一ニシテ此外ニ縮尺千分一乃至五千分一等ノ油井密集地及好望地域ノ地形圖又地質圖ヲ刊行シ、高距線ヲ以テ含油層ノ位置ヲ明ニシ、斷面圖ヲ調製シ油層胚胎ノ狀態ヲ示セリ、外業及內業ハ地質係、地形係ニ於ケルモノト異ナルコトナク只彼ニ比シテ甚タ精密ナリ、卽チ地形測量ニハ三角測量、基線測量ヲモ施行シ、縮尺ヲ千分一乃至二萬分一ニ取リ、此圖ヲ用ヒ地質調査ニ從事ス、地形及地質圖編成ノ方法ハ圖幅ト異ナルナキモ原圖ヲ縮尺一萬分一乃至二萬分一トナシ、寫眞ニヨリ之ヲ其半ニ縮尺シ印行ニ附ス、油田地形及地質圖幷ニ說明書ヲ公ニシタルハ明治三十五年ニアリ、爾後八區域ノ油田調査ヲ完了シタリ

前途ノ事業　本邦石油鑛業目下ノ急務ハ油田ノ開發、原油ノ增額ヲ計ルニアリ、南ニ臺灣、本島ニ遠江、上野、信濃、越後、羽前、羽後、陸奥、北ニ北海道、樺太ノ未タ調査ニ着手セサル油田アリ、然レトモ明治三十六年ニ於ケル調査費削減ハ本調査進行上ニ障碍ヲ與フルコト尠カラサルモ將來此等油田ニ就キ應急ノ調査ヲ施行シ以テ斯業ノ參照ニ資セントス

分析係

沿革　分析試驗ノ事業ハ當初「コルシエルト」監督ノ任ニアリ、本所創立後明治十六年十一月同氏ノ解傭セラルヽヤ高山甚太郎本係ノ首席ニアリテ事業ヲ監理セリ、明治十九年一月ヨリ同二十三年七月ニ至ル間ハ總務局ノ所管ニ屬セシモ業務ニハ少シモ變化ナシ、此際一時高峰讓吉ノ課長タリシコトアリシモ明治二十一年四月ヨリ同三十年十月ニ至ル間、高山甚太郎課長又ハ係長トナリ其功績甚タ多シトス課長、係長及本所創立以來分析試驗ニ從事シタル技術官ハ左ノ如シ

自明治十五年二月
至明治十六年十一月　係長「コルシエルト」

自明治十九年二月
至明治廿一年三月　課長　高峰讓吉

自明治二十一年四月
至明治三十一年十月　課長係長　高山甚太郎

自明治三十五年六月
至現今　課長係長　清水省吾

技師　喜多村彌太郎
技師　肥田密三
顧問　ワグネル
技師　大久保親誠
技手　大角成允
技手　清水富彌
技手　渡邊不二男
技手　黒田政憲
技手　大角右門
技手　小泉角五郎
技手　内藤道太郎
技手　橋本宇三郎
技手　立神睦夫
技師　塚本愿
技手　吉岡昇

技手　福田貞作
技手　吉田彦六郎
技師　長井長義
技手　田村典瑞
技手　梶浦鎌次郎
技手　北村彌一郎
技手　橋本新一
技手　吉井友志
技手　豊丸勝二
技手　安田乙吉
技手　中川虎太郎
技手　柏井廣治
技師　莊司市太郎
技師　山内精
技手　大橋敏男

自明治三十一年十一月
至明治三十五年五月　課長　小寺房次郎

（拜命順）

御用掛　松本收
技手　植田豊橘
技師　清水鐵吉
技手　平尾鍬三郎
技手　關口寛一郎
技師　近藤會次郎
技手　武藤三枝
技手　伊藤金吾
技手　松田健彦
技手　三谷敬次
技手　名和豐
技手　大場信吾
技手　平松武
技手　金森玄八

目的　本係ノ目的ハ地質調査ニ必要ナル材料幷ニ鑛産物、工業用材料ヲ分析試驗シ普ク殖産ノ原要ヲ明示スルニアリ、而シテ地質調査及油田調査ノ爲メ採集セル鑛物、鑛石、岩石、石炭、石油等分析ノ結果ハ分析報文、地質圖幅說明書及地質要報等ニ登載シテ之ヲ世ニ公ニシ、其結果タル大ニ實業者ノ參考トナリ直接若クハ間接ニ本邦殖産工業ノ發達ニ補益セルモノ少カラス

事業及功程　本係ノ事業ハ分析試驗ニアリ、而シテ石炭、石油、「セメント」陶磁器、耐火原料、硝子原料ノ分析試驗ノ如キハ本所創立以來ヨリ之ヲ施行シ、其成績ノ斯業ヲ益シ事業經營上ニ至大ノ功果ヲ擧ケタルハ玆ニ之ヲ言フヲ用ヒサルナリ、且明治十九年以前ニ於テハ「ワグネル」創意ノ陶器窯ヲ築造シテ陶器ノ試驗ニ從事シ、器具、器械ヲ貸與シテ鹽田改良ノ方法ヲ講シタルカ如キ特ニ注意スヘキ事項タリ、又明治廿五年ヨリ同三十六年ニ至ル前後十二年間手數料ヲ徵シテ官民ノ分析依賴ニ應シ斯業ノ發達ニ資シ實業家ヲ益セルコト大ニ本係ノ分析試驗ハ實

ニ此種分析試驗ノ標準トナレリ、而モ此事業ヲ擧ケテ之ヲ工業試驗所ニ移サレタリ、左ニ主要ナル分析試驗ノ數ヲ摘載スヘシ

種別	箇數	檢定數
金屬鑛	四、一三一	九、九六七
非金屬鑛	二、四三五	一四、七七四
岩石粘土類	三、七〇四	一三、七六九
水	二六四	一、八四八
製品	二、五一四	八、四三五
其他	四八三	一、九九五
計	一三、五三一	五〇、七八八

前途ノ事業　本邦ニ於ケル應用材料ニシテ分析試驗ノ結了セルモノハ甚タ僅少ナリ、且今後學術ノ進歩ト共ニ分析試驗ヲ要スルモノ益增加シ研究ヲ要スル事項ノ劇增スルハ明カナル趨勢ナリトス、而シテ現在ノ僅少ナル本係ノ技術官ヲ以テ是等ノ分析試驗ニ應スル能ハサルヲ遺憾トス

文庫及陳列館

文庫及陳列館ハ地質調査所ノ要素ニシテ之ニヨリ地質調査所事業ノ

如何ヲトスヘキモノナレハ常ニ意ヲ用キテ整理セルモ創立以來技術官ニ不足ヲ告クルト、事業室ノ狹小ナルトニヨリ其設備未タ完カラス、明治十九年本所ノ麹町區道三町ニ移轉シテヨリ圖書ハ倉庫ニ藏シ必要已ムヲ得サルモノニ限リ各課ニ分置シタリ、同三十二年地質課ニ小文庫ヲ設置シ、同三十五年本所ノ修築ニ際シ文庫ヲ置キ、同三十九年本所ハ京橋區木挽町ニ移轉シ事業室狹小ナルモ特ニ所内ノ一室ヲ以テ文庫ニ充テ目下之カ整理中ニ屬ス、現藏書ノ數ハ左ノ如シ

種類	和文	歐文
地質學書類	六〇	三〇六
岩石及鑛物學書類	三〇	二一四
古生物學書類	一	二六一
地理學書類	二一九	一〇九
物理及化學書類	三四	六〇三
鑛床及採鑛冶金學書類	七	二〇一

種類	和文	歐文
測量書類	一七	七五
報告書類	一、二一一	一一三
雜誌類	五〇	一、九二五
各國地質調査所報文類	—	一、七九二
以上ニ屬セサル書類	二、四〇二	三二三
地圖類	七、六四九	三、〇一三

現時交換圖書ノ數ハ左ノ如シ

	内地刊行圖書	外國刊行圖書
	一ヶ年凡四百九十	一ヶ年凡四百四十

本所創立後陳列館ハ狹小ニシテ僅カニ參考品ノ一部ヲ陳列スルニ止マリ縱覽ヲ許サス、明治十九年麴町區道三町ニ移轉後モ其設備完カラス、已ムヲ得ス本所所藏ノ標本ノ一部ヲ帝室博物館ニ陳列シテ以テ斯業ノ開發ニ資セリ、爾後屢陳列館設置ノ議ヲ獻セリ、明治三十四年農商務省ニ陳列館ヲ設置シ本所ノ標本ヲモ該館ニ陳列スルコト、ナリ其設備ニ着手セルモ各局ノ出品意ノ如ク整備スルニ至ラス、遂ニ該館ハ特許陳列館トナレリ、同三十九年本所ノ京橋區木挽町ニ移轉スルヤ特許陳列館ハ本所ニ屬スルニ至レリ、卽チ該館ニ本所所藏ノ標本ヲ陳列シ官民ノ縱覽ニ供セント欲シ目下之カ整理中ニアリ、本所所屬ノ現在標本ノ數左ノ如シ

岩石	三三〇個	化石	六六五個	鑛物	七六六個
建築石	五四三	裝飾石	一六七	有用土石	三〇〇

出版物

本所ノ出版物ハ地圖及文書トス、地圖ニハ地質圖、地形圖、土性圖アリ、文書ニハ說明書、年報、地質要報、分析報文等アリ

一、地圖

本所出版ノ地圖ニハ和文、歐文ノ二種アリ、本邦ニ於テ歐文ヲ以テセル地形圖幷ニ地質圖ニシテ據ルヘキモノハ本所出版ノ地圖アルノミ、以テ本邦ノ地形、地質幷ニ鑛產ノ如何ヲ外人ニ紹介シ事業經營上ニ至大ノ便益ヲ與ヘシコト少々ナラス、而シテ本所ニ於テ最初ニ編成シタルハ豫察東北部地形圖ニシテ實ニ明治十五年ニアリ、蓋シ此種ノ地形圖ハ本邦ニ於テ未タ嘗テ編成シタルコトナク、本邦ニ於テ果シテ之カ銅版彫刻ヲ了シ印刷ヲモ完成シ得ルヤ否ヤノ疑問ヲ生シ、先ツ之ヲ印刷局ニ計リシモ議成ラス、卽チ當時恰モ來朝中ノ伊國人「スモリック」ヲシテ此事ニ當ラシメタルモ數月ニシテ其目的ヲ達スル能ハサルヲ知ル

ニ至リ、更ニ印刷局其他市内有名ノ印刷業者ニ之ヲ計リシモ當初ノ業務ナルト、歐文彫刻ノ困難ナル爲メ目途立タストシテ皆之ヲ辭シ、最後ニ東陽堂吾妻健三郎大ナル決心ヲ以テ事ニ當リ、歐文ノ如キハ自ラ之ヲ彫刻シ、又色彩十餘版ノ地質圖ノ如キハ僅少ナル用紙ノ伸縮モ忽チ接合ヲ不可ナラシメ、彫刻印刷再三ニシテ成ラサルモ屈セス、此間本所技術官モ直接間接ニ之ヲ助力シ、幾多苦心ノ結果年餘ヲ經テ明治十七年豫察東北部地形圖、同十九年豫察東北部地質圖ノ彫刻印刷成レリ、伊豆圖幅地質圖ハ紙幅小ナルト、色彩ノ少キトニヨリ之ニ先チ同十八年ニ刊行セラレタリ、實ニ當初彫刻印刷セラレタル地形圖及地質圖ハ爾後刊行ノモノトハ大ニ趣キヲ異ニセルモノアリテ其彫刻及印刷ニハ非常ナル苦心ノ跡ヲ彫シ技術拙劣ナルモ此種ノ彫刻幷ニ印刷ノ本邦ニ於テ完成シ得ルコトヲ證明シタリ、爾後此技術ハ年ト共ニ進歩シ、明治三十年前後ニ至ルマテ其進歩ノ跡歷々トシテ著シキハ吾妻健三郎ノ功與テ大ニ力アリ

一、地形圖　豫察地形圖　縮尺ハ四十萬分一ニシテ高距百米毎ニ一曲線ヲ描キ、山岳、河川、都府、神社、佛閣、道路、著名ナル鑛山等ヲ示セリ、和文、歐文ヲ以テ刊行ス、總數ハ五幅トス

豫察地形圖	印行年度	測量	製圖
東北部	十七年	關野修藏 大川通久	若林平三郎 寺本種義 太田健吉郎 戸川爲繼
同（訂正）	三十三年	シュツトガルト 岩間正備 阿曾沼次郎 倉田吉嗣 大川通久 關野修藏 神足勝記 中村潔靜	佐々木信堅 寺本種義
東部	二十年		戸川爲繼 寺本種義
中部	二十三年	シュツトガルト 阿曾沼次郎 岩間正備 大川通久 神足勝記 中村潔靜 關野修藏	若林平三郎 太田健吉郎
西部	二十五年	關野修藏 中村潔靜 大川通久 神足勝記	菅沼盈之 佐々木信堅
西南部	二十七年	大川通久 神足勝記 關野修藏 中村潔靜 阿曾沼次郎	戸川爲繼 鈴木清忠

地形圖幅　縮尺ハ二十萬分一ニシテ高距四十米毎ニ一曲線ヲ描ケリ、本圖ハ豫察地形圖ニ比シテ一層精密ナルモノナリ、和文、歐文ヲ以テ刊行ス、總數ハ九十九幅トス

地形圖幅

圖幅	縱行	橫行	測量製圖	印行年度
伊豆	XI.XII	8	神足勝記 關野修藏	若林平三郎	十七年
橫濱	XII	9	大川通久 神足勝記 關野修藏	菅沼盈之	十七年
上總	XIII	9	關野修藏	菅沼盈之	十七年
東京	XII	10	神足勝記 大川通久 關野修藏	戶川爲纘	十九年
千葉	XIII	10	大川通久 關野修藏	菅沼盈之	十九年
靜岡	XI	8	神足勝記 大川通久 關野修藏	太田健吉郎	十九年
前橋	XII	11	神足勝記 大川通久	菅沼盈之	二十年
富士	XI	9	神足勝記 大川通久 關野修藏	太田健吉郎	二十年
甲府	XI	10	神足勝記 大川通久 關野修藏	若林平三郎	二十年
水戶	XIII	11	大川通久	菅沼盈之	二十年

圖幅	縱行	橫行	測量製圖	印行年度
上田	XI	11	神足勝記	寺本種義	二十一年
長野	XI	12	神足勝記	戶川爲纘	二十一年
日光	XII	12	阿曾沼次郎	太田健吉郎	二十一年
喜連川	XIII	12	大川通久	寺本種義	二十二年
豐橋	X	8	神足勝記	寺本種義	二十二年
四日市	IX	8	關野修藏	戶川爲纘	二十二年
佐渡	XI	14.15	中村熙靜	寺本種義	二十二年
富山	X	12	中村熙靜	寺本種義	二十三年
足助	X	9	關野修藏	戶川爲纘	二十三年
名古屋	IX	9	大川通久	戶川爲纘	二十三年

熊本	宮津	福岡	比叡山	秋田	能代	男鹿島	一之關	大阪	會津	白河	石卷
III	VIII	III	VIII	XIII	XII, XIII	XII	XIV	VIII	XII	XIII	XIV
4	10	6	9	18	19	18	16	8	13	13	15
大川通久	大川通久	大川通久	大川通久	中村熙靜	中村熙靜	大川通久	神足勝記	關野修藏	神足勝記	大川通久	神足勝記
佐々木信堅	太田健吉郎	鈴木民作	太田健吉郎	寺本種義	寺本種義	佐々木信堅	佐々木信堅	太田健吉郎	鈴木清患	寺本種義	戶川爲繼
二十六年	二十五年	二十五年	二十五年	二十五年	二十五年	二十四年	二十四年	二十四年	二十四年	二十四年	二十三年

鹿兒島	隱岐	岡山	大分	本穗	德島	福島	彌彥	濱田	飛島	豐岡	生野
III	V,VI	VI	IV	VII	VII	XIII	XI	V	XII	VII	VII
2	11	8	5	8	7	14	14	8	17	10	9
中關村野熙修靜藏	堀內米雄	大關川野通修久藏	神阿曾沼足勝記 會野修藏次郎	鈴大木川民野作通修久藏	大神足川勝記 堀內米雄	中村熙靜	中村熙靜	神大足川勝通記久	中村熙靜 堀內米雄	大川通久	大川通久
太田健吉郎	佐々木信堅	若林平三郎	佐々木信堅	若林平三郎	太田健吉郎	寺本種義	寺本種義	鈴木清患	寺本種義	寺本種義	若林平三郎
二十八年	二十八年	二十七年	二十七年	二十七年	二十七年	二十七年	二十七年	二十六年	二十六年	二十六年	二十六年

圖幅	三瓶山	大山	米山	福井	本莊	丸龜	酒田	佐賀	和歌山	志布志	高知
縱行	V	VI	XI	IX	XIII	VI	XII	III	VIII	IV	VI
橫行	9	9.10	13	11	17	7	16	5	7	1	6
測量	關野修藏	關野修藏	中村熙靜	中村熙靜	中村熙靜	堀內米雄	田村英太郎	關野修藏	田村英太郎	中村熙靜	關野修藏
製圖	佐々木信堅	若林平三郎	太田健吉郎	寺本種義	寺本種義	若林平三郎	太田健吉郎	若林平三郎	太田健吉郎	太田健吉郎	若林平三郎
印行年度	二十八年	二十八年	二十九年	二十九年	二十九年	三十年	三十年	三十一年	三十一年	三十一年	三十二年

圖幅	宮崎	宿毛	釜石	須崎	宇和島	甑島	角島	木本	那智	新庄	佐土原
縱行	IV	V	XIV	VI	V	II	III	IX	VIII	XIII	IV
橫行	2	4	17	5	5	2	7	6	6	16	3
測量	關野修藏	乙部直衛	關野修藏	關野修藏	乙部直衛	關野修藏	關野修藏	關野修藏	關野修藏 田村英太郎	中村熙靜 堀內米雄	中村熙靜
製圖	太田健吉郎	若林平三郎	佐々木信堅	若林平三郎	太田健吉郎	寺本種義	太田健吉郎 青木雄太	太田健吉郎	太田健吉郎	戶川爲繼	寺本種義
印行年度	三十二年	三十二年	三十三年	三十三年	三十三年	三十四年	三十四年	三十五年	三十五年	三十六年	三十六年

尻矢崎	周防灘	崙島	青森	人吉	珠洲岬	加世田	仙臺	山口	室戸崎	須佐	鳥羽
XIV	IV	IX	XIII	III	X	III	XIII	IV	VII	IV	IX
21	6	13	20	3	13	1	15	7	5	8	7
					中村熙靜 飯塚昇		中村熙靜 堀内米雄	中村熙靜	中村熙靜	中村熙靜	關野修藏
	製圖完結	製圖完結	製圖完結	寺本種義	飯塚昇	間宮義風	太田健吉郎	太田健吉郎 戸川爲繼	飯塚昇	寺本種義	太田健吉郎
				三十九年	三十九年	三十九年	三十九年	三十八年	三十七年	三十七年	三十六年

廣島	日和佐	敦賀	金澤	木曾	高山	新潟	村上	三厩	盛岡	一戸	七戸
V	VII	IX	IX	XI	X	XII	XII	XIII	XIV	XIV	XIV
7	6	10	12	10	11	14	15	12	18	19	20

圖幅	縱行	橫行	測量	製圖	印行年度
松山	V	6			
延岡	IV	4			
上縣	II	8			
下縣	II	7			
壹岐	II	6			

圖幅	縱行	橫行	測量	製圖	印行年度
平戶	II	5			
長崎	II	4			
字治島	II	1			
福江	I	4			

總圖

圖名	縮尺	刊行年度	製圖
大日本帝國全圖	百六十萬分一	二十一年	若林平三郎
大日本帝國地形全圖	百萬分一	二十九年	鈴戶川爲淸木繼忠
大日本帝國地形全圖	英文百萬分一	三十二年	鈴戶川爲淸水繼忠

特別地形圖　地質又ハ土性ヲ示ス爲メ特ニ縮尺ノ大ナル地形圖ヲ編成セルコトアルモ地形圖トシテ單獨ニ出版セルモノナシ

二、地質圖　豫察地質圖　地形係ニ於テ調製ノ豫察地形圖ニヨリ彩色ヲ施シテ地質ヲ區別シ、鑛山、有用鑛物、鑛泉等ハ符號ヲ以テ其所在ヲ明ニセリ、和文、歐文ヲ以テ刊行ス

豫察地質圖製圖	地質調査	印行年度
東北部	若林平三郎 寺本種義 太田健吉郎 戸川爲繼	ナウマン 西山正吾 坂市太郎 富士谷孝雄 中島謙造 山田皓 巨智部忠承 下傳吉 鈴木敏 池安次郎 三浦宗一郎 小塚專治 井上禧之助 伊木常誠 佐川榮次郎 金原信泰 中島又謙 横山傳次郎 原田豐吉	十九年
同（訂正）	佐々木信堅 寺本種義		三十五年
東部	寺本種義		二十年

豫察地質圖製圖	地質調査	印行年度
東部	戸川爲繼	山田皓 鈴木敏 坂市太郎 西山正吾	
中部	若林平三郎 太田健吉郎 鈴木清忠	原田豐吉 巨智部忠承 中島謙造 鈴木傳吉 三浦宗次郎 大塚專一 坂市太郎 西山正吾	二十三年
西部	菅沼盈之	巨智部忠承 小藤文次郎 奈佐忠行 大塚專一 鈴木敏吾 西山傳吉 中島謙造 山下傳吉	二十七年
西南部	鈴木清忠 戸川爲繼	巨智部忠承 山下傳吉 中島謙造 奈佐忠行 鈴木敏	二十八年

地質圖幅　地形係編成ノ地形圖幅ニ色彩ヲ施シテ地質ヲ區分ス、其編成ノ方法ハ豫察圖ニ同シキモ彼ニ比シテ一層精密ナリ、和文、歐文ヲ以テ刊行ス

地質圖幅及其說明書

圖幅	縱橫行	地質調査	地圖印行年度	說明書出版年度
伊豆	XI.XII 8	西山正吾	十八年	二十年
橫濱	XII 9	鈴木敏	二十年	二十年
千葉	XIII 10	巨智部忠承	二十年	二十年
靜岡	XI 8	中島謙造	二十年	二十年
富士	XI 9	鈴木敏	二十年	二十年
前橋	XII 11	山田皓	二十年	二十年
上總	XIII 9	巨智部忠承	二十一年	二十年
東京	XII 10	鈴木敏	二十一年	二十年
甲府	XI 10	鈴木敏	二十一年	二十一年
水戸	XIII 11	山田皓	二十一年	二十一年
上田	XI 11	山下傳吉	二十一年	二十一年
長野	XI 12	中島謙造	二十一年	二十一年
日光	XII 12	奈佐忠行	二十二年	二十一年
喜連川	XIII 12	大塚專一	二十二年	二十二年

豊橋	四日市	佐渡	足助	名古屋	富山	石巻	白河	會津	大阪	一之關	男鹿島
X	IX	XI	X	IX	X	XIV	XIII	XII	VIII	XIV	XII
8	8	14.15	9	9	12	15	13	13	8	16	18
三浦宗次郎	山下傳吉	中島謙造	三浦宗次郎	三浦宗次郎	大塚專一	菊池安	大塚專一	奈佐忠行	山下傳吉	菊池安	三浦宗次郎
二十二年	二十二年	二十二年	二十三年	二十三年	二十三年	二十三年	二十四年	二十四年	二十四年	二十四年	二十四年
二十六年	二十六年	二十二年	二十三年	二十三年	二十三年	二十四年	二十四年	二十五年	二十六年	二十五年	二十四年

秋田	福岡	能代	生野	比叡山	宮津	豊岡	熊本	德島	赤穗	彌彥	福島
XIII	III	XII XIII	VII	VIII	VIII	VII	III	VII	VII	XI	XIII
18	6	19	9	9	10	10	4	7	8	14	14
三浦宗次郎	鈴木敏	中島謙造	巨智部忠承	山下傳吉	巨智部忠承	巨智部忠承	山下傳吉	鈴木敏	巨智部忠承	中島謙造	山下傳吉
二十五年	二十五年	二十六年	二十六年	二十六年	二十六年	二十六年	二十七年	二十七年	二十七年	二十八年	二十八年
二十五年	二十七年	二十六年	二十八年	二十八年	二十七年	二十八年	二十八年	二十八年	二十八年	三十二年	三十一年

圖幅	隱岐	大分	岡山	飛島	濱田	鹿兒島	三瓶山	大山	本莊	米山	福井
縱行	V.VI	IV	VI	XII	V	III	V	VI	XIII	XI	IX
橫行	11	5	8	17	8	2	9	9.10	17	13	11
地質調查	山上萬次郎	山上萬次郎	大塚專一	山下傳吉	鈴木敏	中島謙造	山上萬次郎	大塚專一	山下傳吉	中島謙造	鈴木敏
地圖印行年度	二十八年	二十八年	二十八年	二十八年	二十八年	二十九年	二十九年	二十九年	二十九年	三十年	三十年
說明書出版年度	二十八年	二十八年	二十八年	二十八年	二十九年	二十九年	二十九年	二十九年	三十年	三十三年	三十年

圖幅	丸龜	志布志	酒田	佐賀	宮崎	宿毛	須崎	高知	和歌山	宇和島	釜石
縱行	VI	VI	XII	III	IV	V	VI	VI	VIII	V	XIV
橫行	7	1	16	5	2	4	5	6	7	5	17
地質調查	山上萬次郎	大塚專一	佐川榮次郎	大塚專一	大塚專一	井上禧之助	佐川榮次郎	小川琢治	金原信泰	井上禧之助	金原信泰
地圖印行年度	三十一年	三十一年	三十一年	三十二年	三十三年	三十三年	三十三年	三十四年	三十四年	三十四年	三十五年
說明書出版年度	三十一年	三十二年	三十一年	三十四年	三十三年	三十三年	三十三年	三十五年	三十五年	三十五年	三十六年

人吉	球洲岬	新庄	山口	須佐	室戸崎	烏羽	佐土原	那智	木本	角島	甑島
III	X	XIII	IV	IV	VII	IX	IV	VIII	IX	III	II
3	13	16	7	8	5	7	3	6	6	7	2
金原信泰	小川琢治	井上禧之助	鈴木敏	鈴木敏	大築洋之助	小川琢治	伊木常誠	大築洋之助	小川琢治	巨智部忠承	伊木常誠
調査完結	三十九年	三十八年	三十八年	三十八年	三十七年	三十七年	三十七年	三十六年	三十六年	三十五年	三十五年
三十九年		三十八年	三十八年	三十八年	三十七年	三十七年	三十七年	三十六年	三十六年	三十六年	三十五年

新潟	村上	三厩	盛岡	一戸	七戸	尻矢崎	加世田	周防灘	輪島	青森	仙臺
XII	XII	XIII	XIV	XIV	XIV	XIV	III	IV	IX	XIII	XIII
14	15	21	18	19	20	21	I	6	13	20	15
							井上禧之助	野田勢治郎	小川琢治	野田勢次郎	金原信泰
							調査完結	調査完結	調査完結	調査完結	調査完結

圖幅	縱行	橫行	地質調査	地圖印行年度	說明書出版年度
高山	X	11			
木曾	X	10			
金澤	IX	12			
敦賀	IX	10			
日和佐	VII	6			
松山	V	6			
廣島	V	7			
延岡	IV	4			

圖幅	縱行	橫行	地質調査	地圖印行年度	說明書出版年度
上縣	II	8			
下縣	II	7			
壹岐	II	6			
平戶	II	5			
長崎	II	4			
宇治島	II	1			
福江	I	4			

總圖　地形係編成ノ縮尺百萬分一地形圖ニヨリ色彩ヲ施シテ地質ヲ區分シ、地質ノ頒布及其構造ヲ表示シ、火山ノ配置、山脈ノ趨勢ヲ顯ハシ、及著名ノ金屬鑛山、石炭、石油、硫黃等ノ各鑛床及鑛泉、其他有用鑛物ノ產地、鑛泉ノ位置ヲ示セリ、和文、歐文ヲ以テ刊行ス

圖名	地質調査	製圖	地圖印行年度	說明書印行年度
大日本帝國地質全圖	巨智部忠承 中島謙一 大塚專造 小川琢治 石原初太郎 鈴木敏 山下傳吉 上井萬次郎 佐川禧之助 榮次郎	戸川爲繼 鈴木清忠 田村英太郎	三十一年	三十二年

特別圖　主要ナルモノハ縮尺一萬分一生野鑛山地質圖、縮尺四萬分一筑豐煤田地質圖及縮尺二萬分一乃至四萬分一油田地形及地質圖トス、共ニ金屬鑛床又ハ石炭、石油賦存ノ狀態ヲ示シ、縮尺二萬分一東京市ノ地質圖ハ東京市ノ地形、地質ヲ明カニス、此外天草煤田ノ地質圖ノ如キ、佐渡相川鑛山地質圖ノ如キ、足尾銅山ノ地質圖ノ如キ、或ハ韓國ノ地質圖ノ如キハ皆地質要報又ハ地質圖幅說明書ノ附圖トシテ刊行セリ

圖名	地質圖縮尺	地質調査	製圖	印行年度
東京地質圖並說明書	二萬分一	鈴木敏	若林平三郎	二十一年
佐渡相川鑛山四近地質圖並說明書	六千分一	中島謙造	寺本種義	二十二年
御料局生野鑛山地質圖並說明書	一萬分一	巨智部忠承	若林平三郎	二十六年
福岡縣豐前及筑前煤田地質圖並說明書	四萬分一	鈴木敏		二十六年

區域	地質調査	地形測量	製圖	地圖印行年度	說明書出版年度
大日本帝國油田第一區越後國東山地質及地形圖	佐川榮次郎	阿曾沼次郎 伊藤雪太郎 堀内米雄 須田讓作	若林平三郎 戸川爲纘 寺本種義	三十五年	三十五年
同 第二區羽後國秋田地質及地形圖	伊木常誠	田村英太郎 田村與吉	青木雄太	三十六年	三十六年
同 第三區越後國西山地質及地形圖	大塚專一	堀内米雄 柳田伊之助 川井甲吉 伊藤雪太郎 須田讓作 清水仙八 飯塚昇 笠間太郎	若林平三郎 戸川爲纘 寺本種義 青木雄太	三十六年	三十六年
同 第四區越後國新津地質及地形圖	大塚專一 主任 堀内米雄	主任 堀内米雄	主任 若林平三郎	三十七年	三十八年
同 第五區越後國頸城地質及地形圖	伊木常誠 主任 堀内米雄	主任 堀内米雄	主任 若林平三郎	三十八年	三十八年
同 第六區越後國頸城東部地質及地形圖	伊木常誠 主任 堀内米雄	主任 若林平三郎	主任 若林平三郎	三十九年	三十九年

土性圖及說明書

圖名	土性調査	製圖	地圖印行年度	說明書印行年度
甲斐國	恒藤規隆 大内健 （フエスカ）	市原正秀	十八年	二十年
下野國東部	青山元 高橋昌 （フエスカ）	市原正秀	十九年	廿一年
武藏國北部	相模全國 武藏國南部 渡部朔 今非秀之助 恒藤規隆 （フエスカ）	吉田晉 市原正秀	二十年	廿一年
常陸國	相模全國 武藏國南部 渡部朔 今非秀之助 恒藤規隆 （フエスカ）	吉田晉 市原正秀 菅沼盈之	二十年	廿一年

| | | |

圖名	土性調查製圖	地圖印行年度	說明書印行年度
播磨但馬淡路全國攝津西部丹波國西南部	小林房次郎	高麗虎	廿九年廿一年
大隅薩摩二國	早川元次郎	吉田晋 高麗虎	三十年
大隅國諸島	早川元次郎	吉田晋 高麗虎	三十年
大和國	松岡操	吉田晋	三十年廿一年
日向國	三成文一郎 恒藤規隆	高麗虎	三十年

圖名	土性調查製圖	地圖印行年度	說明書印行年度
美作備前備中三國	松岡操	吉田晋 高麗虎	廿一年 廿四年
羽前全國羽後國飽海郡	鴨下松次郎	吉田晋 高麗虎	廿二年 廿四年
越中國	三成文一郎 小林房次郎 鈴木重助	高麗虎	廿三年 廿七年
肥前國東北部	松岡操	佐々木信堅	廿六年

總圖及特別圖

圖名	地圖縮尺	調查印行年度
地產要覽圖	三百萬分一	フエスカ 二十二年
大日本帝國國別土性略圖	五十萬分一	三十五年
福島縣北會津郡土性圖並說明書	一萬分一	恒藤規隆 三十五年

二、文書

一、說明書　地質圖幅說明書ハ地質圖幅ノ說明ニシテ其目ヲ地形、地質

及應用地質ノ三章ニ大別シ、第一章ニハ圖幅ノ區域、山川、水派ノ配置、沼湖、港灣ノ位置、土地ノ高低ヲ記シ、第二章ニハ岩石ヲ變成、水成、火成ノ二類ニ大別シ區域內ニ存在スル變成岩、水成岩ノ各層及火成岩ノ各種ヲ詳說シ及相互ノ關係ヲ論シ以テ地質ノ構造及沿革ヲ示シ、第三章ニハ此說明ニ基キ鑛床及有用鑛物、土石、鑛泉類ノ產量、性質等ヲ記述シ、又地層斷面圖及鑛床圖ヲ調製シテ之ニ附ス、已ニ七十一冊ヲ出版セリ、卽チ地質圖幅ノ項ニアル表ニ示セルカ如シ

縮尺百萬分一地質圖說明書ハ其記述ノ要項ハ前者ニ同シク、本邦ノ地形及地質ヲ論述シ、地質ノ頒布幷ニ其構造ヲ示シ、應用物料ニ關シテハ圖上載スル所ノ各項目ニ就テ其梗概ヲ記シ、殊ニ鑛山ハ著シキハ圖ヲ挿ミ、非金屬鑛物ハ其性質、用途ヲモ略述シタルモノアリ、生野鑛山說明書、筑豐煤田地質圖說明書、油田地質及地形圖說明書ハ其記述ノ事項ニ於テ前者ニ異ナルナキモ主ニ金屬鑛床、石炭、石油ノ賦存ノ狀態ニ就キ詳述セリ、其出版ノ年月ハ特別地質圖ノ項ニアル表ニ示セルカ如シ

土性圖說明書ハ土性圖ノ說明ニシテ其目ヲ緒言、地勢、土性、應用ノ四章ニ大別シ、第一章ニハ調査及實驗ノ方法ヲ記シ、第二章ニハ區域內ノ地形、運輸、交通ノ便否、土地ノ高低ヲ記シ、第三章ニハ土性ノ大別、各種土性ノ區域、構造、成分、實地ニ於ケル狀態、地味、土地改良ノ方法等ヲ詳說シ、第四章ニハ各土性ノ農作上ノ關係、生產力ノ比較、適否、植物及肥料ノ性質、價值、應用ノ方法ヲ示セリ、已ニ三十三冊ヲ出版セリ、卽チ土性圖ノ項ニアル表ニ示セルカ如シ

二、報文及要報　年報ハ明治十五年本所創立以來發行セルモノニシテ同十八年之ヲ廢セリ、本報ハ地質、土性、分析、地形ノ四部ニ分チ各其調查セシ事項ヲ揭載ス

地質調查所明治十五年報第一號

本邦鑛山ノ弊害及改良法

青森縣下尾太銅山（ナヲマン）

土性試驗法概略

蘆粟試驗（ナヲマン）

日本農業ノ目途　コルジエルト
葡萄山ヲ開クニ注意スヘキ事件　分析掛
生石灰分析
房州砂ノ試驗
本邦所產鑛石ノ分析　コルジエルト
五島對馬及長門下ノ關產粘土ノ考究

地質調查所明治十六年報第一號

境市街井水改良考按　ナウマン
鹿兒島縣下加世田村砂止改良按　フエスカ　今井秀之助
石灰質肥料論及其產地
原野開墾ノ考按　渡部朔
富山縣下立山產マール質拓發岩試驗　フエスカ
上總國武射郡富岡村土壤ノ分析
東京府下用水分析　コルジエルト
蠟石ノ試驗　高山甚太郎
漆ノ化學的研究　コルジエルト　吉田彦六郎

地質調查所明治十六年報第二號

第一編

製鹽法總論
三田尻製鹽法
尾ノ道、藤江村製鹽法
同富濱、吉和濱製鹽法
坂出製鹽法
味野村製鹽法
赤穗製鹽法
尾崎村及新濱村製鹽法
齋田製鹽法
瀉本製鹽法
行德製鹽法
金澤製鹽法
波ノ波村製鹽法
上濱製鹽法
諸地方製鹽表
第二編　改良意見
海水分析
諸製鹽法ノ要領

コルシエルト
肥田密三

日本現行製鹽法ノ改良

鹽汁ノ製出

鹽化苦土ヲ含マサルヘカラス純鹽汁ヲ得ヘキ事

鹽汁、苦滷液、食鹽及凝石ノ分析

鹽汁ノ千個ニ關スル要件

日本ノ氣候

氣象表

煎鹽方法ノ改良

附錄

鹽田ニ於テ第五日ニ至ルマテ水分蒸散ノ進行

地質調査所明治十七年報第一號

本邦所產煤炭及鐵

鹿兒島縣下日置郡泥炭

銅ヲ以テ土壤ノ酸化鐵ヲ定量スル法　ナウマン

山梨縣下甲州川口及山中兩湖水ノ分析　（フエスカ）今井秀之助

烟草ノ說　（フエスカ）

礬土石灰玻璃分析

伯耆國吉鐵山鐵鑛滓分析

ポルトランド漆灰製造ノ要領
珪砂石ヲ以テ製造セルポルトランド漆灰
熔融硝石ノ鑄鐵ニ於ル焦用試驗
東京府下煉瓦製造論
混凝土製造論

コルシエルト

地質要報ハ明治十九年以來發行セリ、本報ハ年報ニ繼續スヘキモノニシテ本所事業成績報告ノ速カナランコトヲ欲シ每年四回ニ分刊セリ、明治二十二年一月地學雜誌ノ發行セラル、ヤ本所事業報告ハ其發行者タル地學會ニ囑托シ該誌ニ登載シ、印刷費トシテ同年金二百圓ヲ同會ニ給與シ、本報ノ定期發行ヲ廢シ只大部ノ報告及研究ノ結果等該會ニ托スヘカラサルモノアルトキ臨時本報ヲ發行スルコト、ナセリ、而シテ翌二十三年ニハ金二百圓、同二十四年ニハ金八拾圓ヲ同會ニ給與セルモ經費削減ノ結果同二十五年ヨリ之ヲ廢セリ、本報ハ初刊以來已ニ三十二冊ヲ發行セリ、卽チ左ノ如シ

明治十九年地質要報

第一號（九月）

地質局事業ノ要領　坂市太郎

地質調査ノ目的　關野修藏

佐渡鑛山地質報文　肥田密三（コルシエルト）

草倉銅山鑛床報文　肥田密三（コルシエルト）

鐵力觀測表

吸砂石土中ノ一半酸化物ノ溶解試驗　中島謙造

硅土ノ酒精鹽酸中ニ於ル溶解作用試驗　原田愼治

第二號（十二月）

阿仁鑛山地質略說　ナウマン

足尾銅山地質略說　白野夏雲

本邦産粘板岩並效用

硯材誌

明治二十年地質要報

第一號（三月）

地質局事業一覽　巨智部忠承

白水小豆畑褐煤全層記事　ナウマン

四國砂金産地

吾妻山四近地質報文　西山正吾

第二號（六月）

豆相房總四州建築石材誌　鈴木敏

武藏國入間郡茶産地ノ土性　恒藤規隆

遠江國榛名郡石油地ノ地質　中島謙造

應用地質學　ペーツ氏著拔載

日本全國高低表（緒言幷晴雨計推算表）　地形課

第三號（九月）

飛驒國四近地質報文　坂市太郎

土壤中發生スル沼鐵鑛ノ生成ヲ論ス　フェスカ

各地高低表　地形課

第四號（十二月）

武藏國秩父郡桑園土性　恒藤規隆

應用地質學　ペーツ氏著拔載

各地高低表　地形課

明治二十一年地質要報

第一號（三月）

地質局事業一覽

土性論　ソエスカ
建築石材崩壞ノ理及其崩壞ヲ防禦スル方法　鈴木敏
應用地質學　ペーシ氏著　應用地質學拔載
各地高低表　地形課

第二號（六月）
中國四國鑛山地質豫察報告　坂市太郎
土性論　フエスカ
各地高低表　地形課

第三號（九月）
中國鑛山ノ地質撮要　巨智部忠承
敦賀姫路間地質報文　西山正吾
土性論　フエスカ
各地高低表　地形課

第四號（十二月）
日本地質構造論　原田豐吉
應用地質學　ペーシ氏應用地質學拔載
各地高低表　地形課

明治二十三年地質要報

第一號（二月）
熊本縣管內豫察地質調査報文　鈴木敏
磐梯山噴火調査報告　大塚專一
各地高度表　地形課
明治二十四年地質要報
第一號（九月）
常磐東岸煤田調査報文　大塚專一
長崎縣管內豫察地質調査報文　奈佐忠行
明治二十五年地質要報
第一號（八月）
東南九州地質豫察概報　中島謙造
明治二十六年地質要報
第一號（九月）
南日本ノ外面地帶ニ賦存スル硫化鑛層　中島謙造
明治二十八年地質要報
第一號（三月）
火山噴出灰泥及硫質噴氣ノ爲メ分解セラレシ岩石ニ就キフエスカ房相兩半島ニ亘ル地裂線調査報文　大塚專一

津川近傍鐵鑛床調査報文　大塚專一
岡山縣勝南郡褐鐵鑛床　山上萬次郎
日本石灰石一班

明治二十九年地質要報

第一號（三月）

藏王山爆裂調査概報　巨智部忠承
火山噴出灰泥及硫質噴氣ノ爲メ分解セラレシ岩石ニ就キ　フェスカ

第二號（三月）

本邦石油產地調査報文　中島謙造
本邦產石油試驗報文　（近藤會次郎／橋本新一）

明治三十一年地質要報

第一號（三月）

足尾銅山地質調査報文　鈴木敏
北海道夕張及空知砂金地　（大塚專一）
秋田縣熊澤切留平硫黃山調査報文
鹿兒島縣枕崎村赤谷金山調査報文　土性係
重要農作物產地土性調査ノ成績
鐵鑛分析ノ成績　分析係

第二號（十月）

筑前國鞍手郡西川四近煤田地質調查報文　鈴木敏

筑前國遠賀郡大辻四近煤田地質調查報文　鈴木敏

筑前國嘉穗煤田地質調查報文　鴨下松次郎

秋田、山形兩縣下礦肥調查概報　大塚專一

明治三十二年地質要報

第一號（三月）

日向國燐礦床ニ就テ　大塚專一

伊豫國市之川安質母尼鑛山　小川琢治

明治三十四年地質要報

第一號（三月）

相模野基線附近地質調查報告書　巨智部忠承

鐵鑛床成因及鐵鑛含有燐鑛ニ就テ　大塚專一

朝鮮巨濟島巡回報告　佐川榮次郎

鐵鑛分析成績　分析課

全國各地高低表　地形課

明治三十五年地質要報

第一號（七月）

横濱稅關附近海底ノ地質　井上禧之助
北海道及羽後國ニ於ケル石油地踏査報文　伊木常誠
信濃及越後西部ノ石油産地踏査報文　地質課
清國及韓國主要鑛産頒布圖說明　分析課
內國産石炭分析表　地形課
全國各地高低表

明治三十六年地質要報

第一號（二月）
歐米石油事業視察概要　大塚專一
島島火山破裂狀況取調報告　金原信泰
滿俺鑛分析表　分析課
全國各地高低表　地形課

第二號（八月）
本邦産建築及裝飾用石材一班　鈴木敏
液體燃料ニ就テ　大塚專一
越後國産石油ノ成分試驗ニ關スル報告　清水省吾

第三號（十二月）
細倉鑛山　井上禧之助

陸前鳥澤及陸中劍山硫黃山　井上禧之助
鎌倉ノ水脈調査報告　伊木常誠
青森縣弘前四近苹菓栽植地土性及其構造ニ就テ　松岡採
本邦產粘土分析表　分析課

明治三十七年地質要報

第一號（三月）

遠江國天龍地方「ニッケル」含有結晶片岩　巨智部忠承
甲斐國倉澤重石鑛床概査報文　小川琢治
加賀國山中溫泉地質調査報文　大築洋之助
北海道日高國沙流郡石油產地地質調査報文　清水省吾
越後及羽後國產石油及瓦斯ニ就テ　伊木常誠
越後國新津西山及頸城油田原油產額　分析課
內國產金銀鑛分析表

第二號（七月）

長門國美禰豐浦無烟炭田地質調査報文　鈴木敏
山形縣赤湯溫泉調査報告　金原信泰
直隸省北部蒙古高距表　小川琢治
內國產銅鑛分析表　分析課

第三號（十二月）

周防國鹿野安質母尼鑛山地質概査報文　鈴木敏
天草下島煤田地質調査報文　金原信泰
遠州産「ニツケル」鑛ヨリ鈹製出試驗　清水省吾
石炭分析試驗表　分析課

明治三十八年地質要報

第一號（七月）

但馬國山口鑛山ノ鑛床概査報告　巨智部忠承
鹿析及六黑見金山鑛床概査報文　鈴木敏
長崎近傍金鑛床概査報告　小川琢治
常陸國稻田及雨引山四近產花崗石材ニ就テ　鈴木敏
鑛油試驗成績　清水省吾
硫黃鑛分析表　分析課

第二號（十二月）

清國盛京省地質及鑛產　井上禧之助
アスファルト及ピッチニ就テ　大塚專一
大平洋沿岸ニ於ケル液體燃料ニ就テ　分析課
鉛鑛及亞鉛鑛分析表

明治三十九年地質要報

第一號（十二月）

西南日本地質構造概觀　小川琢治

羽後國新屋附近ノ産油地地質　伊木常誠

重油ヲ道路ニ撒布スルニ就テ　大塚專一

金銀鑛鐵鑛及石炭分析表　分析係

明治四十年地質要報

第一號（三月）

韓國ノ地質及鑛産　井上禧之助

三、其他ノ文書　分析試驗報文ニハ實業上參考トナルヘキ分析試驗ノ成績ヲ登載シ、明治二十八年以來二號ヲ發行セルモ後該報告ハ地質要報ニ登載スルコト、ナセリ、又本所創立前即チ地質課ニ於テ地質調査報告分析之部幷ニ總務局分析課ニ於テ分析報文二冊ヲ出版セリ

地質調査報文分析之部

十四年第一冊（十二月）

耐火粘土

隕石

明治十三年分析年報
灰石
製鹽法改良ノ方按
坩堝及瓦斯製造用レトルト
畑土
灰砂煉石
土壤
第二回内國勸業博覽會出品鉛鑛坩堝
五本松出石ノ磁器及淡路松本ノ陶器

十五年第二冊（七月）

日本畑地ニ天然漆灰
土壤分類ノ說
甘蔗耕作地質考究
耐火粘土
松根油試驗
絹絲ヲ黑染スル土ノ試驗
駒場粘土ノ試驗
火災防禦論

コルシエルト　高山甚太郎

コルシエルト

分析報文第一冊（二十年四月）

耐火煉瓦分析試驗	高山甚太郎
黑鉛坩堝分析試驗	喜多村彌太郎
松脂試驗	大久保親誠
內國產魚製肥料分析	ワグネル
內國製藍分析	高山甚太郎
耐火煉瓦窯圖面解說附圖	喜多村彌太郎
ホフマン氏楕圓形赤色煉瓦窯圖面解說附圖	ワグネル

分析報文第二冊（二十一年三月）

內國所產漆喰土試驗	高山甚太郎
內外國製セメント試驗	關口寬一郎
毒荏油試驗	高山甚太郎
煉瓦製造用粘土試驗	高山甚太郎
內國所產石炭分析表	香村小錄

分析試驗報文第一號（二十八年三月）

煉化石（モルタル）試驗報文	高山甚太郎
骸炭分析試驗報文	高山甚太郎
耐火煉化石試驗報文	高山甚太郎

分析試驗報文第二號（二十九年六月）

製鐵用耐火材料及煉化石試驗報告	高山甚太郎 田村典瑞
ポルトランドセメントノ試驗方	高山甚太郎 黒田政憲
本邦產石油試驗報告	近藤會次郎 橋本新一
露國バトーム產石油試驗成績	近藤會次郎
臺灣產石油試驗成績	北村彌一郎
石炭分析表	黒田政憲
滿俺鑛分析表	吉井友志
石灰石及苦灰石分析表	

事業報告ハ三年乃至十年每ニ刊行シ本所ノ事業ヲ報告スルモノニシテ已ニ三冊ヲ刊行セリ、其他以上ニ屬セサル報文アリ

報告書名	調査	印行年
內國地質調查施行ノ主意		
農商務卿第二回報告 地質調查所事務成績		
地質局事業十年間報告		二十三年
地質調查所事業成績第二回報告		二十九年

地質調査所事業成績第三回報告		三十七年
靜岡縣管下伊豆國地質取調報告	橋爪源太郎 和田維四郎	十二年
石川縣加賀國手取川近傍地質概測	小藤文次郎	十三年
日本地產論通編	フエスカ	二十三年
內國產石炭分析表		二十五年
日本地產論特編上卷	フエスカ	二十七年
礦肥調查報文第一號		二十九年
各府縣土壤試驗成績第一集		三十一年

三、歐文文書ノ主要ナルモノハ獨文ヲ以テ出版セル原田豐吉ノ日本地質構造論及本所員編輯ノ英文日本地質及鑛產、幷ニ「フエスカ」ノ獨文地產要覽ニシテ日本ノ地質、鑛產及土性ニ就キ記述セルモノナリ、左ニ歐文文書ヲ記載スヘシ

Die Aufgaben und die Thätigkeit der agronomischen Abtheilung der kaiserlich japanischen geologischen Landesaufnahme von Prof. Dr. Max Fesca. 1884.

Die kaiserliche geologische Reichsanstalt von Japan. Zusammengestellt für den internationalen Geologen-Congress zu Berlin

1885, von Tsunashiro Wada, 1885.

Abhandlungen und Erlaeuterungen zur agronomischen Karte der Provinz Kai, von Prof. Dr. Max Fesca. 1887.

Ueber die landwirthschaftlichen Verhaeltnisse Japan's und die Kolonisation Hokkaido's, von Prof. Dr. Max Fesca. 1887.

Versuch einer geotektonischen Gliederung der japanischen Inseln, von Dr. Toyokitsi Harada. 1888.

Die japanischen Inseln. Eine topographisch-geologische Uebersicht, von Dr. Toyokitsi Harada. 1890.

Beitraege zur Kenntniss der japanischen Landwirthschaft, I. Allgemeiner Theil. von Prof. Dr. M. Fesca. 1890.

Beitraege zur Kenntniss der japanischen Landwirthschaft, II. Specieller Theil. von Prof. Dr. M. Fesca. 1893.

Imperial Geological Survey of Japan, with a catalogue of articles exhibited by the Geological Survey at the World's Columbian Exposition. 1893.

Imperial Geological Survey of Japan, with a catalogue of articles and analytical results of the specimens of soils, exhibited at the Seventh International Geological Congress, St. Petersburg, Russia. 1897.

Outlines of the Geology of Japan; Part I Topography and Part II Geology. 1900.

Outlines of the Geology of Japan; Part III Economic Geology. 1902.

Notice sur le Service géologique impérial du Japon avec Catalogue des Articles et Resultats analytiques des Echantillons de Sols exposés a l'Exposition universelle de Paris. 1900.

Imperial Geological Survey of Japan with a catalogue of articles and analytical results of the specimens of soils, exhibited at

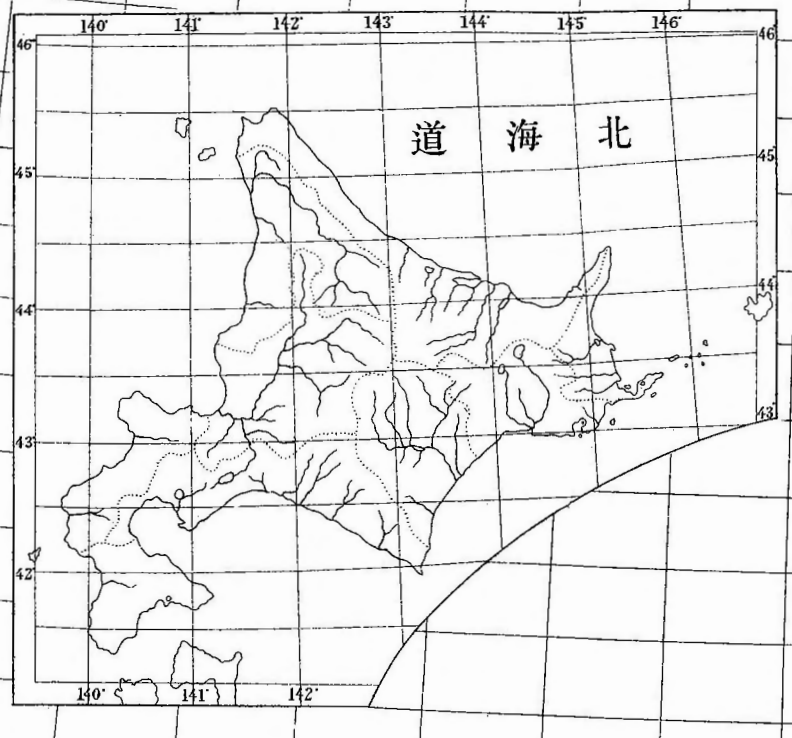
the Louisiana Purchase Exposition held at St. Louis, Missouri, United States of America in 1904.

A Sketch of the Geology of the Southern Part of Hsing-king, China, by Kinosuke Inouye. 1905.

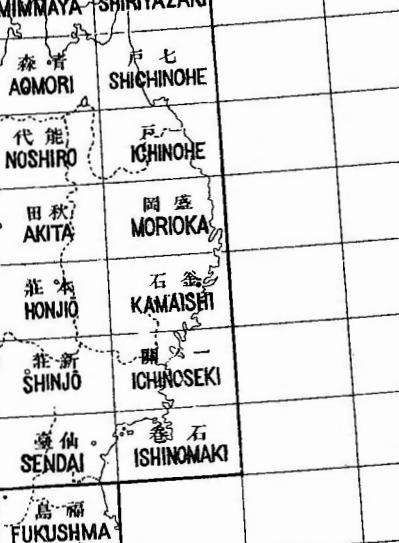
Memoirs of the Imperial Geological Survey of Japan. Vol. I. No. 1. 1907. (Geology and Mineral Resources of Korea with General Geological Map of Korea, Scale 1 : 1.500.000 by Kinosuke Inouye).

目錄圖

INDEX MAP



部東察豫
RECONNAISANCE II.



部北東察豫
RECONNAISANCE I.

三厩 MIMMAYA
尻屋崎 SHIRIYAZAKI
青森 AOMORI
七戸 SHICHINOHE
能代 NOSHIRO
一戸 ICHINOHE
男鹿島 OGASHIMA
秋田 AKITA
盛岡 MORIOKA
飛島 TOBISHIMA
本荘 HONJŌ
釜石 KAMAISHI
酒田 SAKATA
新庄 SHINJŌ
一関 ICHINOSEKI
村上 MURAKAMI
仙臺 SENDAI
石巻 ISHINOMAKI
佐渡 SADO
新潟 NIIGATA
福島 FUKUSHIMA
弥彦 YAHIKO
米山 YONEYAMA
會津 AIZU
白河 SHIRAKAWA
金澤 KANAZAWA
富山 TOYAMA
長野 NAGANO
日光 NIKKŌ
吉連川 KITSUREGAWA
福井 FUKUI
高山 TAKAYAMA
上田 UEDA
前橋 MAEBASHI
水戸 MITO
甲府 KŌFU
東京 TŌKIŌ
千葉 CHIBA
富士 FUJI
横濱 YOKOHAMA
上總 KAZUSA
靜岡 SHIZUOKA
伊豆 IZU

部中察豫
RECONNAISANCE III.

輪島 WAJIMA
珠洲 SHUSUZAKI

部西察豫
RECONNAISANCE IV.

隱岐 OKI
豐岡 TOYOOKA
津宮 MIYAZU
敦賀 TSURUGA
木曾 KISO
山瓶上 SAMBEYAMA
大山 DAISEN
野生 IKUNO
比叡山 HIYEIZAN
名古屋 NAGOYA
足助 ASUKE
濱田 HAMADA
岡山 OKAYAMA
赤穂 AKŌ
大坂 ŌSAKA
四日市 YOKKAICHI
豐橋 TOYOHASHI
廣島 HIROSHIMA
亀山 MARUGAME
德島 TOKUSHIMA
和歌山 WAKAYAMA
鳥羽 TOBA
松山 MATSUYAMA
高知 KŌCHI
佐和井 HIWASA
那智 NACHI
本木 KINOMOTO
宇和島 UWAJIMA
須崎 SUSAKI
室戸崎 MUROTOZAKI
毛宿 SUKUMO

部南西察豫
RECONNAISANCE V.

上縣 KAMIAGATA
須佐 SUSA
下關 SHIMOAGATA
角島 TSUNOSHIMA
山口 YAMAGUCHI
伎美 IKI
福岡 FUKUOKA
防周灘 SUONADA
平戸 HIRADO
佐賀 SAGA
大分 ŌITA
江福 FUKAE
長崎 NAGASAKI
本熊 KUMAMOTO
延岡 NOBEOKA
人吉 HITOYOSHI
土佐原 SADOWARA
島甑 KOSHIKIJIMA
鹿兒島 KAGOSHIMA
宮崎 MIYAZAKI
宇治島 UJISHIMA
加世田 KASEDA
志布志 SHIBUSHI

I II III IV V VI VII VIII IX X XI XII XIII XIV XV

24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145

43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31

明治四十年十二月廿八日印刷
明治四十年十二月卅一日發行

著作權所有

農商務省

印刷者　東京市神田區通新石町三番地　田中市之助

印刷所　東京市神田區通新石町三番地　東陽堂支店
電話（本局九七〇）

發行所　東京市神田區通新石町三番地　東陽堂支店